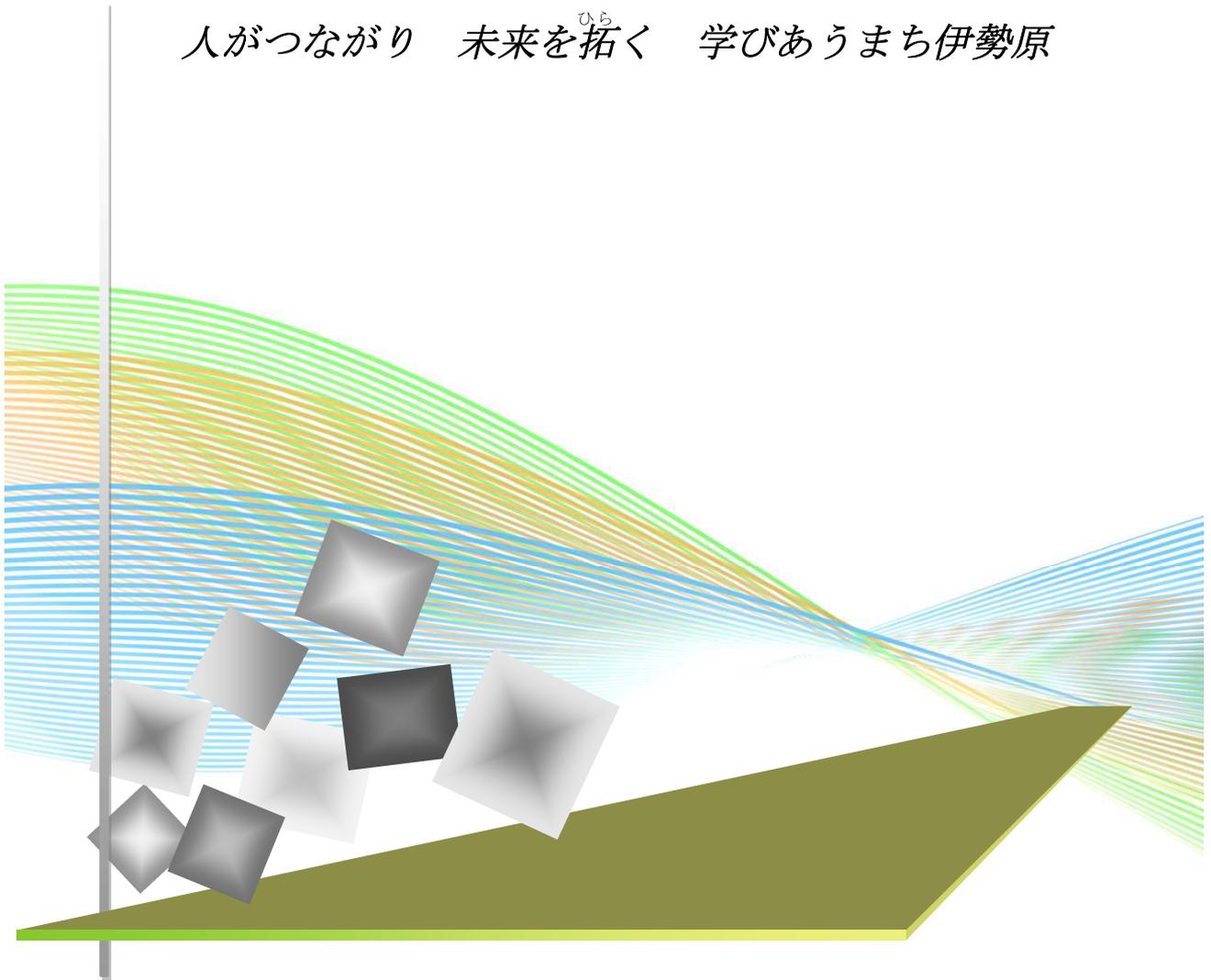


平成29年度

教育委員会点検評価報告書 (平成28年度対象)

対象事業: 伊勢原市教育振興基本計画 後期基本計画

人がつながり 未来を拓く^{ひら} 学びあうまち伊勢原



伊勢原市教育委員会

目次

I. 点検評価の概要	P.1~2
II. 伊勢原市教育振興基本計画について	P.3~12
III. 教育委員の意見	P.13~15
IV. 学識経験者による総括的な意見	P.16~18
V. 点検評価シート	P.20~98

目標1 幼児教育への支援

就学相談の充実	P.22
幼児家庭教育学級の開催	P.23
幼稚園・保育所と小学校との交流	P.24
地域教育機関等連絡協議会の開催	P.25

目標2 学校教育の充実

小学校教科担当制等の推進	P.26
きめ細やかな指導体制の推進	P.27
道徳教育・人権教育の推進	P.28
伝統や文化等に関する教育の推進	P.29
読書活動の推進	P.30
学校図書館の整備充実	P.31
定期健康診断及び感染症予防への取組	P.32
体力テスト結果の分析・検証	P.33
授業及び部活動への専門家等の派遣	P.34
小中学校9年間を見通した教育活動の推進	P.35
小中学校と高等学校及び特別支援学校等との連携	P.36
豊かな体験活動の推進	P.37
外国語教育の推進（ALTの派遣）	P.38
特色ある教育モデル事業	P.39
外国語教育推進連絡協議会の開催	P.40
外国につながるの児童生徒への支援	P.41
情報教育の推進（教育用PCの整備）	P.42
環境教育の推進	P.43
キャリア教育の推進	P.44
中学校給食の導入検討	P.45
小中学校における食育推進	P.46
教育相談の充実	P.47
通級指導教室での児童指導	P.48
特別支援学級への介助員の配置	P.49
専門家による教職員への助言と相談の実施	P.50
適応指導教室の運営	P.51
支援を要する家庭への就学援助	P.52
特別支援学級就学支援	P.53
校内研究会の充実	P.54
教職員研修の充実	P.55
教職員による教育研究の充実	P.56
教職員等の人権研修の充実	P.57

教職員 ICT 環境の整備	P.58
教職員の健康診断及びメンタルヘルス相談の充実	P.59

目標3 地域全体で取り組む教育力の向上

学校と地域との協働	P.60
学校からの情報発信	P.61
小中学校通学路の安全対策	P.62
訪問型家庭支援事業	P.63
教育講演会の開催	P.64
家庭教育講演会の開催	P.65

目標4 学校教育環境の整備充実

小中学校校舎屋上・外壁の修繕	P.66
小中学校施設の改修	P.67
小中学校教室への扇風機設置	P.68
基金を活用した教育・文化の振興	P.69
学校環境衛生検査の実施	P.70
災害時における児童生徒の安全確保	P.71

目標5 社会教育活動の振興

生涯学習や市民活動の情報提供	P.72
生涯学習の充実と人材活用	P.73
公民館を拠点とする生涯学習の推進	P.74
人権啓発講座・人権セミナーの開催	P.75
図書館利用者の利便性の向上	P.76
図書館資料の整備・充実	P.77
読書の普及・啓発	P.78
学校図書館の環境整備への支援	P.79
プラネタリウム事業の充実	P.80
学校と連携した取組の推進	P.81
地元企業や大学、ボランティアと連携した取組	P.82
スポーツ競技大会の開催	P.83
伊勢原射撃場を活用した競技の振興と地域の活性化	P.84
総合型地域スポーツクラブの運営支援	P.85
市民活動の発表・文化芸術鑑賞機会の提供	P.86
新たなスポーツ広場の整備	P.87

目標6 歴史と文化遺産の継承

国指定重要文化財・宝城坊本堂保存修理への支援	P.88
市史編さん事業の推進	P.89
文化財保管施設の整備	P.90
文化財情報の発信	P.91
文化遺産と観光を結びつけた地域の活性化	P.92

目標7 教育委員会機能の充実

教育委員会（教育委員）活動の充実	P.93
危機管理の徹底	P.94
教育委員会事業の点検・評価	P.95

I. 点検評価の概要

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律162号。以下「法」という。)第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価(以下「点検評価」という。)を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

本市教育委員会では、伊勢原市教育振興基本計画に計上した重点取組について、翌年度に点検評価を行い、その結果を報告書としてまとめ、公表するとともに、点検評価で得られた課題等を踏まえ、次年度以降の取組に反映させます。

2 点検評価の対象

点検評価の対象は、平成28年度の事業で、伊勢原市教育振興基本計画後期基本計画(以下「後期基本計画」という。計画期間：平成25年度から平成29年度の5年間。)に計上した91本の重点取組のうち、子ども部所管事業17本を除く74本の取組となります。

なお、保健福祉部スポーツ課所管事業については、スポーツ課が平成28年度においては教育委員会に属していたため、本年度の点検評価の対象に含めました。

3 点検評価の方法

- (1) 各取組を所管する所属において、点検評価の対象となる重点取組について、その取組実績を明らかにし、当初の目標に対する進捗状況や有効性、効率性、また、それらの取組が対象者にどのような影響や効果がもたらされたのかなどを総合的に点検し、評価を行いました。
- (2) 各所属が行った点検評価を基に、教育委員が点検評価を行いました。
- (3) 教育委員会が行った点検評価をまとめた報告書を基に、外部の学識経験者が第三者の視点で点検評価を行いました。
- (4) 点検評価の結果を報告書としてまとめ、教育委員会での承認、市議会への報告を経て、市民へ公表しました。

4 経過

- 平成29年 6月 各取組を所管する所属による点検評価
- 平成29年 7月 教育委員による点検評価会議(第1回)(第2回)
- 平成29年 8月 学識経験者による点検評価
- 平成29年 9月 教育委員会議9月定例会への報告書議案上程
- 平成29年 10月 市議会への報告・公表

5 点検評価シートと評価基準

点検評価シートは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の四つの流れから成るPDCAサイクルに基づいた構成とし、Check（評価）の箇所では、進捗状況・有効性・効率性の3つの評価項目を設け、A・B・Cの3段階で評価を行いました。

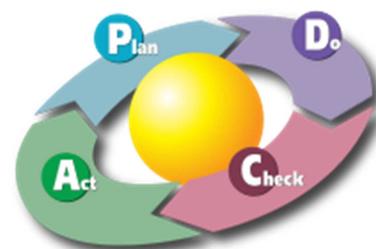
なお、本年度は、平成30年度から始まる伊勢原市第2期教育振興基本計画（以下「第2期計画」という。）の策定年度にあたるため、後期基本計画全体の評価とそれに基づく次期計画の方向性を定めるための点検評価となります。したがって、本年度の点検評価シートについては、後期計画の最終年度である29年度の事業の達成見込を記載した上で、後期計画5年間全体の評価を行い、第2期計画策定に向けた方向性を打ち出しました。

また、各年度の評価を踏まえた5年間の評価を行うため、本年度の点検評価シートには、各年度の評価を記載した「各年度の評価一覧」を設けました。

	評価基準
進捗状況	後期計画に対し事業がどれだけ進捗したかを取組内容や事業指標における目標値に対する達成状況を総合的に勘案し、3段階で評価しました。 <ul style="list-style-type: none"> 計画どおり（達成率100%）→A評価 概ね計画どおり（達成率70%～100%未満）→B評価 計画どおり進捗せず（達成率70%未満）→C評価
有効性	後期計画に掲げる「現状と課題」や「目標とする状態」に対し、取組内容が有効的（意図した目的の成果が上がっているか）であったかを総合的に勘案し3段階で評価しました。 <ul style="list-style-type: none"> 高い（事業は目的達成に大いに寄与し、内容や方法にほとんど改善の必要はない）→A評価 普通（事業は目的達成にかなり寄与したが、内容や方法にある程度の改善が必要）→B評価 低い（事業は目的達成にある程度寄与したが、内容や方法に大いなる改善が必要）→C評価
効率性	目的の達成に向けて、取組が効率的に実施されているか、コスト面、実施方法、進捗状況等を総合的に勘案し、3段階で評価しました。 <ul style="list-style-type: none"> 効率的に実施されている （事業のための資源はムリなくムダなく使用された。工夫や改善の必要はほとんどない）→A評価 改善の余地がある （事業のための資源はムリなくムダなく使用されたが、ある工夫や改善が必要）→B評価 抜本的な改善が必要である （事業のための資源はムリなくムダなく使用されたが、大いなる工夫や改善が必要）→C評価

■伊勢原市教育委員会委員（敬称略・順不同）

役 職	氏 名
教育長	鍛代 英雄
教育長職務代理者	永井 武義
委員	重田 恵美子
委員	菅原 順子
委員	渡辺 正美



■学識経験者（敬称略） 東海大学文学部 特任教授 齋藤 道子

II. 伊勢原市教育振興基本計画について

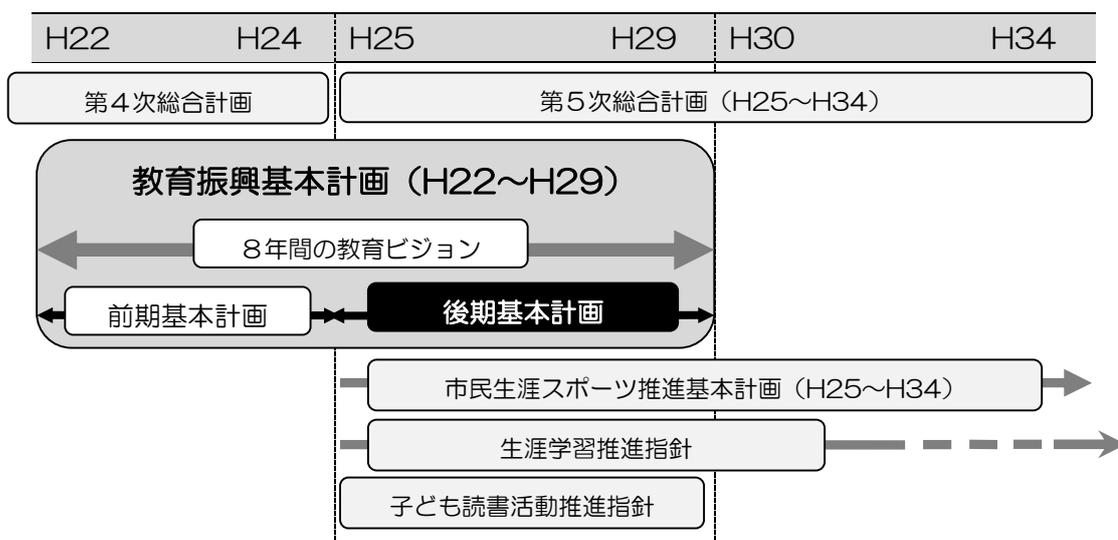
1 策定の趣旨

伊勢原市では、平成18年12月に改正された教育基本法の趣旨を踏まえ、同法第17条第2項の規定に基づき、伊勢原市の財産である「人と自然と歴史の調和」をコンセプトに平成22年3月に「伊勢原市教育振興基本計画」を策定しました。

本計画は、平成22年度から29年度までの8年間にわたる本市が目指す教育の姿を示した「教育ビジョン（基本理念と教育の方向性）」と、具体的な施策を掲げた「基本計画」で構成されています。

平成22年度から始まった前期基本計画が平成24年度で終了するのを受け、平成25年度から29年度までの5年間の後期基本計画を策定しました。

また、これに併せ、教育振興基本計画の分野別の計画や指針として「伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画」や「伊勢原市生涯学習推進指針」、「伊勢原市子ども読書活動推進指針」を合わせて策定しました。



2 後期基本計画の基本的な考え方

後期基本計画を策定するに当たり、分野別に7つの「目標」を定め、それぞれの「施策方向」ごとに「現状と課題」を整理し、今後5年間に取り組むべき施策を打ち出し、重点取組を掲げました。

また、達成度を図る指標として、重点取組ごとに平成29年度までの目標を設定しました。

(1) 社会情勢の認識

～「教育振興基本計画」の策定から現在までの国内社会の動き～

現在のグローバル化や他国に類を見ないほどの少子高齢社会の到来といった急激な社会変化は、生産年齢人口の減少や税収の減少、社会保障費の増大などをもたらし、現在の社会が抱える大きな課題となっています。また、価値観やライフスタイルの多様化に伴う都市化や核家族化の進行は、地域における結びつきの希薄化や孤立化を招いています。

その他にも、物質的に豊かで快適な社会環境のもとで育ち、合理主義や競争社会の価値観の中で育った若者世代は、子育てにストレスを感じたり、自身の生活にとって子の存在が負担と感じてしまう親がいるとの指摘もあります。

このような地域社会の希薄化や家庭の教育力の低下は、親や子どもたちの孤立感や規範意識の低下を招き、虐待やいじめなどにつながる大きな要因と考えられています。こうした社会状況の中、人と人、地域と地域のつながりや絆があらためて見直されています。

(2) 教育ビジョン（基本理念と教育の方向性）

8年間の教育ビジョンを実現するために、3つの視点から目指すべき方向性を定めています。

視点1

・一人ひとりの子どもの健やかな成長を支えていくために

視点2

・生き生きと暮らし、学びあうまちづくりのために

視点3

・歴史と文化遺産を継承するために

教育振興基本計画の見直しについては、平成22年3月の前期基本計画の策定時から現在までの社会情勢を勘案した中で、従前からの施策の重要度の順位付けを変えることはあっても、本市が目指す教育の姿を明示した「教育ビジョン」に影響を与えるような大きな社会的要因はなく、また、法制度上の大きな変更もないため、これについては、平成29年度まで堅持することとしました。

(3) 教育委員会点検・評価からの検証

教育振興基本計画前期基本計画については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、行政内部の自己点検・評価に加え、専門性と公平性を担保するため、外部の人材による点検・評価を行ってきました。計画・実行・評価・改善（PDCAサイクル）の実践に基づいた点検・評価の結果を検証し、そこから見えてきた課題と外部人材の意見・助言を踏まえて後期基本計画を策定しました。

(4) 第5次伊勢原市総合計画と後期基本計画との関係

後期基本計画は、平成25年度から平成34年度までを計画期間とする第5次伊勢原市総合計画との整合を図り策定しました。

総合計画では、次代を担う子どもや若者たちへ、自信を持って伊勢原を引き継ぐことができる力を「未来へ届ける力」と位置付け、「暮らし力（誰もが明るく暮らせるまち）」、「安心力（地域で助け合う安全で安心なまち）」、「活力（個性豊かで活力あるまち）」、「都市力（住み続けたい快適で魅力あるまち）」、「自治力（みんなで考え行動するまち）」の5つの力として整理し、それぞれの力の分野ごとに「まちづくりの目標」と「まちづくりの方向」が示されています。

これらを踏まえ、本計画では、総合計画の目指すまちづくりの一端を担うべく、学校教育の充実をはじめ、生涯学習や生涯スポーツの推進、歴史と文化遺産の継承など、総合計画の主な事業に掲げる教育に関する23事業をはじめ、前期基本計画の着実な実行と新たな課題に対応する91事業を本計画の重点取組として設定しました。

(5) 下位計画との関係

本基本計画と並行して策定した次に掲げる分野別の計画・指針において、本基本計画で掲げる教育ビジョンの視点に立ち、その具現化に向けた方策や取組を示しました。

教育ビジョンの視点

伊勢原市生涯学習推進指針

- 家庭・地域と連携して行う子育て支援
- 生き生きと暮らすことのできる地域社会づくり
- 地域活力や地域資源を活用した社会教育の充実

伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画

- 誰でも気軽にスポーツやレクリエーションができる環境づくり

伊勢原市子ども読書活動推進指針

- 家庭・地域と連携した子育て支援
- 地域活力や地域資源を活用した社会教育の充実

3 前期基本計画の総括

目標1 学校教育の充実

- 確かな学力の向上に向け、小学校1・2年生での35人学級の導入や、主に小学校高学年での教科担当制の実施等、児童の個に応じたきめ細やかな学習環境を整えるなど、基礎的・基本的な知識の習得ができる環境が概ね目標どおり推進されました。
- グローバル人材の育成に向け、国際化への理解や高度情報化等、時代の変化に対応できる能力を育成する環境づくりを推進し、ALTの配置時間数の増や教育用コンピュータの配置等、当初の目標以上に推進することができました。
- 通級指導教室については、言語の理解や表現が苦手な児童を対象にした既存の「ことばの教室」に加え、集団行動やコミュニケーションが苦手な児童を対象にした「まなびの教室」を開設し、スムーズな学校生活を総合的に支援することができました。
- 教職員は、児童生徒一人ひとりに応じた学習・生活指導や、様々な学校を取り巻く環境の変化により、今まで以上に高い資質が求められています。指導力を伸ばす研修に加え、今日的な教育課題を研究する自主課題別調査研究を行うなど、多くの教職員が研修及び研究に参加できる体制が整っており、他の自治体に比べて充実した研修内容となっています。

目標2 地域全体で取り組む教育力の向上

- 学校教育指導協力者の増加や、学校地域連絡会での情報共有、ホームページ及び「学校だより」での情報発信等により、「開かれた学校づくり・運営」が進みました。
- 地域での様々な団体の協力の下、児童生徒が様々な体験学習に参加できる機会が得られています。学校以外でのこうした体験は大変有意義ですので、今後も地域と学校、行政が連携した継続的な活動が求められます。

目標3 教育環境の整備充実

- 学校施設の整備については、限られた予算の中、国の補助金を有効に活用しながら「学校施設保全計画」に基づき計画的に行った結果、徐々にではありますが、施設改修が進みました。
- 教職員への1人1台の校務用コンピュータの導入が目標どおり達成することができました。これにより校内ネットワーク及び市内の教育機関とのネットワークが構築でき、業務処理の効率化を図ることができました。
- PTAや自治会との連携により、通学路の安全点検や登下校時の見守りが行われ、児童を見守る取組が積極的に行われました。また、民生委員やボランティア等による登下校時の見守りも根付いています。
- 社会教育施設の運営には一定の受益者負担が求められる時期にきています。他の自治体の動向を踏まえながら、継続して議論を深めました。

目標4 社会教育活動の振興

- 公民館や図書館、子ども科学館では、それぞれの社会的ニーズに合わせた様々な催し物、講座等を行っています。多くの市民の参加を促すため、各所属が創意工夫を図るとともに、地域の人材や各種ボランティアとの連携により、より充実した取組を行うことができました。
- 生涯スポーツの推進については、「いつでも、どこでも、だれもが」を合い言葉にスポーツ・運動の普及に取り組んだ結果、市民の運動の実施率が上がりました。また、スポーツ・運動を行う環境を整えるため、東海大学と連携した「総合型地域スポーツクラブ」の運営を充実させました。

目標5 歴史と文化遺産の継承

- 市の文化財保護を推進するため「伊勢原市文化財保護条例」を全面改正し、文化財の適切な保存、継承、まちづくりを行う体制を整備しました。そして、その一端を担う人材として「いせはら歴史アドバイザー」を計画的に養成することができました。また、国指定重要文化財である日向・宝城坊本堂の大規模修繕に対して計画的な支援を図ることができました。

目標6 教育委員会機能の充実

- 教育委員会への信頼や理解を深めるため、学校や様々な関係機関等との意見交換を深めることができました。また、教育委員相互でも、いじめや体罰の問題等、その時々の教育課題に対して活発な議論を行いました。
- 教育委員会の事務事業に対する自己点検評価として、教育委員自らが直接個別の取組に対する点検評価を行うシステムを確立しました。

4 前期基本計画からの変更点

後期基本計画の策定に当たっては、幼児教育への支援や学校教育におけるきめ細やかな学習への支援、各学習機会における地域との連携及び人材活用、学び返しなどといった視点に重点を置き、新規事業の計上と施策体系の見直しを行いました。

主な変更点は次のとおりです。

人生のライフステージに合わせ、乳幼児期、学校教育期、青年期、成人期、円熟期等の一人ひとりの成長と生き方を支援する施策体系としました。

学校教育に係る取組について、授業や相談業務等により児童生徒を支援していく取組と、学校が保護者や地域等との連携を通して児童生徒を支援していく取組とに区分しました。

学校教育に係る取組について、児童生徒や教職員を支援するソフト部門と施設整備を行うハード部門に区分しました。

本計画が重点取組として位置付ける事業を明確にするため、経常的な取組については、本計画への掲載から省きました。

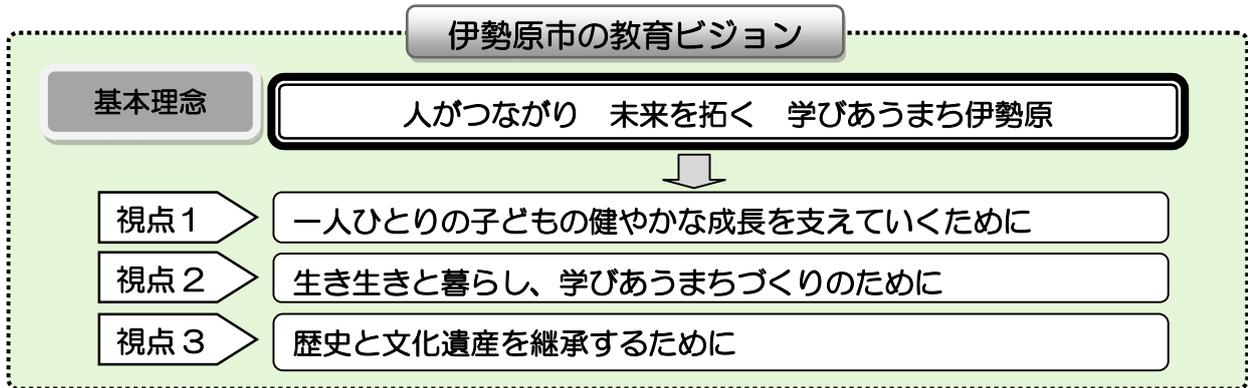
重点取組の計上の仕方について、施策の体系が不明確になり、目指すべき方向性が見失われないよう、施策上、相互に関連があった場合においても、各分野の重点取組を再掲載しないこととしました。

平成22年度以降の社会的課題等を踏まえ、「地域人材の活用」、「家庭支援」、「防災」、「危機管理」といった視点に基づいた取組を新たに打出しました。

また、伊勢原市の目指す教育の方向性や伊勢原市生涯学習推進指針が示す取組を具現化するため、地域の多様な人材を活用した学校・家庭・子ども支援の内容を盛り込みました。



5 伊勢原市教育振興基本計画・後期基本計画 施策体系



後期基本計画

目標	施策方向	施策
幼児教育への支援	1-1 子どもに応じた保護者への相談に努めます	1-1-1 未就学児に関する相談や就学相談機能の充実
	1-2 家庭の教育力向上と経済的支援を図ります	1-2-1 家庭の教育力向上に向けた支援 1-2-2 就園支援等の充実
	1-3 幼稚園・保育所と小学校の連携を推進します	1-3-1 幼稚園・保育所と小学校の連携推進
学校教育の充実	2-1 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をはぐくみます	2-1-1 確かな学力の育成 2-1-2 豊かな人間性の育成 2-1-3 健康の保持増進、体力の向上 2-1-4 小中連携と異校種間連携の推進
	2-2 教科等の横断的・総合的な教育活動の充実を図ります	2-2-1 豊かな体験活動の推進 2-2-2 国際理解教育の推進 2-2-3 情報・環境・キャリア教育の推進 2-2-4 食育・学校給食の推進
	2-3 子どもに応じた支援・相談体制の充実と家庭への支援を図ります	2-3-1 児童生徒に対する支援・相談体制の充実 2-3-2 家庭への就学支援等の充実
	2-4 教職員の人材育成と環境整備に努めます	2-4-1 授業力の育成を核とした教職員の資質能力の向上 2-4-2 教職員を取り巻く環境の整備

目標	施策方向	施策
----	------	----

地域全体で取り組む 教育力の向上	3-1 学校・家庭・地域の連携を強化します	3-1-1 開かれた学校教育の推進 3-1-2 地域との交流を通じた体験活動の推進 3-1-3 子ども・若者の健全育成のための支援 3-1-4 放課後等の子どもたちの居場所づくり 3-1-5 保護者や地域と連携した通学路の安全対策
	3-2 家庭の教育力の向上を目指します	3-2-1 家庭の教育力の向上に向けた取組

学校教育環境 の整備充実	4-1 安全で快適な学校教育環境の整備・充実を図ります	4-1-1 安全・快適な学校施設への改善 4-1-2 学校における防災体制の充実
-----------------	-----------------------------	---

社会教育活動の振興	5-1 多様な学習機会を提供します	5-1-1 生涯学習への支援と多様な人材活用の促進 5-1-2 図書館運営の充実 5-1-3 子ども科学館運営の充実
	5-2 生涯スポーツを推進します	5-2-1 スポーツ・レクリエーション活動の充実と支援
	5-3 文化芸術活動を推進します	5-3-1 文化芸術活動の推進
	5-4 社会教育施設の整備・充実を図ります	5-4-1 社会教育施設の整備・充実

歴史と文化遺産 の継承	6-1 市の文化財を保護し、市史編さんを推進します	6-1-1 文化財保護・市史編さんの推進
	6-2 歴史・文化の魅力発見と情報発信を推進します	6-2-1 歴史・文化の魅力発見と情報発信の推進

教育委員会 機能の充実	7-1 教育委員会機能の強化と活性化を促進します	7-1-1 教育委員会活動の充実・活性化 7-1-2 教育委員会の危機管理の徹底 7-1-3 教育振興基本計画の進行管理
----------------	--------------------------	--

6 後期基本計画 重点取組一覧

●印は第5次総合計画計上事業、頁が「-」の事業は子ども部所管の事業のため本点検評価の対象外

施策No.	重点取組	項	施策No.	重点取組	項	
1-1-1	就学相談の充実	-	2-1-4	小中学校と高等学校及び特別支援学校等との連携		
	養護相談の充実					
	療育相談の充実					
1-2-1	幼児家庭教育学級の開催		2-2-1	豊かな体験活動の推進		
1-2-2	● 子ども・子育て支援事業	-	2-2-2	● 外国語教育の推進(ALTの配置)		
	私立幼稚園児の保護者への補助	-		● 特色ある教育モデル事業		
	私立幼稚園特別支援教育に対する補助	-		外国語教育推進連絡協議会の開催		
	私立幼稚園に対する教材教具の購入費等の補助	-		外国につながるの児童生徒への支援		
	私立幼稚園に対する施設整備費の補助	-	2-2-3	情報教育の推進 (教育用PCの整備)		
	ひとり親家庭への入学支度金の支給	-		環境教育の推進		
1-3-1	幼稚園・保育所と小学校との交流			キャリア教育の推進		
	地域教育機関等連絡協議会の開催		2-2-4	● 中学校給食導入検討		
2-1-1	● 小学校教科担当制等の推進			小中学校における食育推進		
	きめ細やかな指導体制の推進		2-3-1	● 教育相談の充実		
2-1-2	道徳教育・人権教育の推進			● 通級指導教室での児童指導		
	伝統や文化等に関する教育の推進			特別支援学級への介助員の配置		
	読書活動の推進			専門家による教職員への助言と相談の実施		
2-1-3	学校図書館の整備充実			適応指導教室の運営		
	定期健康診断及び感染症予防への取組		2-3-2	支援を要する家庭への就学援助		
	体力テスト結果の分析・検証			特別支援学級就学支援		
2-1-4	授業及び部活動への専門家等の派遣		2-4-1	校内研究会の充実		
	2-1-4	小中学校9年間を見通した教育活動の推進			教職員研修の充実	
					教職員による教育研究の充実	
			2-4-2	教職員等の人権研修の充実		
			2-4-2	教職員ICT環境の整備		
				教職員の健康診断及びメンタルヘルス相談の充実		
			3-1-1	学校と地域との協働		

施策No.	重点取組	項	施策No.	重点取組	項
3-1-1	学校からの情報発信			読書の普及・啓発	
3-1-2	子どもを対象とした体験活動の充実	—	5-1-2	学校図書館の環境整備への支援	
	若者の活動への支援	—		プラネタリウム事業の充実	
3-1-3	● 子ども・若者計画の策定	—	5-1-3	学校と連携した取組の推進	
	● 子ども・若者への相談体制や指導の充実	—		地元企業や大学、ボランティアと連携した取組	
	子ども・若者の健全育成の推進	—		● スポーツ競技大会の開催	
3-1-4	● 児童コミュニティクラブの充実	—	5-2-1	● 総合型地域スポーツクラブの運営支援	
	● 放課後子ども教室の開設	—		伊勢原射撃場を活用した競技の振興と地域の活性化	
3-1-5	小中学校通学路の安全対策			5-3-1	市民活動の発表・文化芸術鑑賞機会の提供
3-2-1	● 地域の多様な人材を活用した家庭教育支援		5-4-1	● 青少年センターの改修	—
	教育講演会の開催			子ども・若者の活動施設の維持管理	—
	家庭教育講演会の開催			新たなスポーツ広場の整備	
4-1-1	● 小中学校校舎屋上・外壁の修繕		6-1-1	● 国指定重要文化財・宝城坊本堂保存修理への支援	
	● 小中学校施設の改修			市史編さん事業の推進	
	● 小中学校教室への扇風機設置		文化財保管施設の整備		
	基金を活用した教育・文化の振興		6-2-1	● 文化財情報の発信	
	学校環境衛生検査の実施			● 文化遺産と観光を結びつけた地域の活性化	
4-1-2	災害時における児童生徒の安全確保		7-1-1	教育委員会（教育委員）活動の充実	
5-1-1	● 生涯学習や市民活動の情報提供		7-1-2	危機管理の徹底	
	● 生涯学習の充実と人材活用		7-1-3	教育委員会事業の点検・評価	
	公民館を拠点とする生涯学習の推進				
5-1-2	人権啓発講座・人権セミナーの開催				
	図書館利用者の利便性の向上				
	図書館資料の整備・充実				

Ⅲ. 教育委員の意見

目標1 幼児教育への支援

- 通常の学級の中にも支援を必要とする児童も少なくありませんが、そうした児童に対して教育センターは学校と緊密に連携を図った支援を行っており、保護者の安心と担任教諭の支援につながっています。
- 校種の垣根を越えた地域の教育機関等の代表者が一堂に会する「地域教育機関等連絡協議会」は、様々な内容の情報交換や研究協議を行う機会となっており、大変有意義なものとなっています。このような会議は伊勢原市特有のもので、様々な機会を通して本取組を周知していくことが、市全体で取り組む子どもに対する支援の理解につながると考えます。
- 幼稚園・保育所等と小学校との交流は、子どもたちの円滑な就学に向けた有意義な機会となっていますので、事業への継続的な支援をお願いします。

目標2 学校教育の充実

- 小学校低学年における35人以下学級の推進について、1年生での国制度による教員配置の他に、2年生については加配定数枠の活用と市費による教員配置がなされ、少人数学級の推進と合わせてきめ細やかな指導体制が整っています。
- 本市では、「学校警察連絡協議会」等を通じて警察との緊密な連携が図られ、児童生徒の問題行動に対する早期発見、早期対策につながっています。様々な機会を通して本取組を周知していくことが児童生徒の健全育成に対する市の取組の理解につながると考えます。
- ふれあい活動や体験活動は、児童生徒の豊かな心の育成や人格形成につながる大事な取組です。すぐに成果が現れるものではありませんが、児童生徒の成長に欠かすことのできない実体験となりますので、学校現場ではこれからも継続的に推進していく必要があります。
- 大山小学校での「特色ある教育モデル事業」の柱の一つであるタブレット端末の活用については、調べ学習等の情報収集やドリル学習ソフト等での活用にとまらず、情報発信ツールとしての活用内容もPRしてください。
- 外国につながるの児童生徒に対し、日本語指導、学習指導等に止まらず、当該児童生徒から外国での生活や文化を学ぶなど、他の児童生徒が異文化を理解することのできる機会をつくることを引き続き大切にして欲しいです。
- 中学校給食の導入の今後の方向性として、具体的に教育委員会議で協議していく旨を点検評価報告書に記載していくべきだと考えます。

- 各学校には様々な課題を抱える児童生徒や保護者がおり、多くの教職員や専門家が関わり支援をしていますが、中には問題が長期化して学校運営や授業に支障が出ているケースもあります。専門家であるスクールソーシャルワーカーの配置が定着してきましたが、増加する相談件数に対して現在の配置では臨機応変に対応することができないため、配置増の検討が必要です。
- 児童生徒就学援助費については、小中学校入学学用品費の前倒し支給が平成29年度から実施されますが、利用者の利便性を図る大きな制度変更であり、評価すべき取組であると考えます。
- 校内研究を指定された学校では、3年間を通して全ての教員が研究に取り組み、最終年度には市内小中学校の教員を対象に研究の発表を行い、研究内容をフィードバックしています。そうした学校の努力が分かるように、指定研究を行っている学校名や研究内容を様々な機会を通して周知していくことが地域や保護者に対する学校の取組の理解につながると考えます。

目標3 地域全体で取り組む教育力の向上

- 学校を中心とした地域とのふれあい活動や、教員、PTA、関係機関等が連携して行う小中学校の通学路点検、保護者を対象にした家庭教育に関する講演会の開催等、学校、家庭、地域が連携した児童生徒の見守りや健全育成の推進が継続的に展開され、地域全体の教育力が持続的に保たれています。

目標4 学校教育環境の整備充実

- 小中学校校舎の修繕や改修は多額な事業費を要するため、点検評価シートに決算額を記載して周知を図ることが市民の理解につながると思います。
- 「伊勢原市まちづくり市民ファンド（まちづくり応援寄附金）」制度を活用した市民、企業及び団体等からの寄附金について、教育分野で活用されていることを市民、特に児童生徒に知ってもらうことが大変大切なことだと考えますので、どこの学校の何に寄附金が使われているかを学校へ是非周知してください。

目標5 社会教育活動の充実

- 学校現場では理科の授業の大事さを認識していますので、子ども科学館が行っている理科教諭の受入れ研修は、教員にとって有意義な機会となっています。

- 学校からの要請により数多くの授業やクラブ活動、天体観察会等に子ども科学館の職員を派遣しています。大変良い取組となっていますので、さらなるPRをお願いします。
- 市民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー」に参加することや、本市のオリジナル体操である「すこやかリズム体操」の再普及をすることで、市民が日常的に運動や体を動かすきっかけづくりにつながっています。また、あわせて地域とのつながりなど、市民の連帯意識の醸成にもつながっています。
- いせはら市展や市民音楽祭等の開催にあたっては、各活動団体等で組織する実行委員会が市からの委託を受けて事業を実施しているケースが多いです。そうした場合であっても主催者は教育委員会であるので、責任を持って実行委員会の運営を支援していくことがより良い事業運営につながると考えます。

目標6 歴史と文化遺産の継承

- （仮称）郷土資料館については、資料館機能だけでなく、多くの市民が訪れ活用できる幅の広い施設を検討していただければと考えます。また、一度訪れた方の多くが再来訪してくれるような市のPRにつながる施設を望みます。
- 日本遺産の認定については、職員をはじめ、地域の方や関係者等の御尽力の成果であるのと同時に、日本遺産を構成する文化財を大切に引き継ぎ次世代へ継承してきた全ての先人達のお陰であることを忘れてはいけないと思います。今後は、この日本遺産を地域の活性化、観光を含めたまちづくりにつなげていくことはもちろんのことですが、教育委員会の立場としては、構成文化財のさらなる掘り起こしや調査を重ねていって欲しいと考えます。

目標7 教育委員会機能の充実

- 教育委員として、もっと保護者や地域の方、あるいは学校教育以外の教育機関の職員との意見交換の機会を増やし、現場の声を聞くことが必要であると考えています。また、現にある地域懇談会等への参加も必要であると考えます。
- 総合教育会議については、市長が主宰する会議ではありますが、市役所の会議室での開催にとらわれず、地域や教育現場の方々が会議を傍聴できる機会をつくるなどの工夫も必要ではないかと考えます。
- 本市においては、平成29年4月にいわゆる新教育長が選任され、新教育委員会制度に完全移行しました。今後、新教育委員会制度の検証といったことも必要ではないかと考えます。
- 様々な事案に対する危機管理の重要性が高まっていますので、各機関と連携を図りながら適切な対応を行ってください。

IV. 学識経験者による総括的な意見

『平成 29 年度 教育委員会点検評価報告書（平成 28 年度対象）』に対して、「1、報告書に関して」「2、評価結果に関して」さらに「3、全体として」のそれぞれの観点から、外部の第三者としての意見・感想を述べたいと思います。

【1】 報告書に関して

（1）全体の構成

本報告書は、「I、点検評価の概要」から「V、点検評価シート」までの 5 つの部分から構成されています。このうち、まず「I、点検評価の概要」で評価基準を含む評価作業の全体像が示され、さらに「II、伊勢原市教育振興基本計画について」では評価対象となっている重点取組の平成 22 年度から 29 年度までの教育振興基本計画全体の中での位置づけがそれぞれ明らかにされています。これによって読む側は、評価作業の大枠・評価作業の原則と、ここで各重点取組に対してなされている評価が、教育振興基本計画のうちの後期基本計画のもとに策定された複数年にわたる継続的事業の中の平成 28 年度分に対するものである、ということが理解できる形式となっていることは、報告書の構成として評価できます。

（2）点検評価シートの体裁

点検評価シートは、「Check【評価】」と「Action【改善】」の項目が昨年のもとは変化しています。特に大きな変化は「Check【評価】」欄に「各年度の評価一覧」が新設され、「進捗状況」「有効性」「効率性」の A～C の評価値が平成 25 年度からの一覧表のなかに記され、個々の取組みに対する評価の年次推移が確認できる形式になりました。これはその年度の評価値しか分からなかった昨年のもものに比べ、後期基本計画の複数年にまたがる目標に向けて設定されている各取組の成果が、時間の経過とともにどのように推移しているかを容易に見て取ることができ、その意味で大変有意義な変更だと考えます。さらに「後期基本計画期間全体の自己点検評価」という項目が設けられました。また、「Action（改善）」欄の項目が「点検評価を踏まえた課題」と「平成 28 年度の取組方針」（以上昨年度）から、今年は「事業推進上の課題」「今後の方向性」に変更されていますが、この変更は現在の後期基本計画以降へのさらなる継続性の意欲を感じさせるもので、評価されるべき姿勢と思われる。

さらに「Plan【計画】」欄でも、昨年の報告書では各年度の記述内容が、計画なのか実績なのか分かりにくい場合もありましたが、本報告書では「実績」であることが明記され、その面でも大きく改善されたと評価できます。

【2】 評価結果に関して

まず、評価の対象となっている総計 74 の重点取組に対する平成 28 年度の評価結果 A・B・C の割合を、目標ごとにまとめてみます。なお前年度と比較するために、平成 27 年度の割合も記入しています。

目標	重点取組数	評価項目	評価A (%)		評価B (%)		評価C (%)	
			28年度	(27年度)	28年度	(27年度)	28年度	(27年度)
幼児教育への支援	4	進捗状況	100	100	0	0	0	0
		有効性	100	100	0	0	0	0
		効率性	100	50.0	0	50.0	0	0
学校教育の充実	34	進捗状況	97.1	88.2	2.9	8.8	0	2.9
		有効性	97.1	97.1	2.9	2.9	0	0
		効率性	79.4	58.8	20.6	41.2	0	0
地域全体で取り組む 教育力の向上	6	進捗状況	100	100	0	0	0	0
		有効性	100	100	0	0	0	0
		効率性	83.3	83.3	16.7	16.7	0	0
学校教育環境の 整備充実	6	進捗状況	83.3	66.7	16.7	33.3	0	0
		有効性	100	83.3	0	16.7	0	0
		効率性	100	100	0	0	0	0
社会教育活動の 振興	16	進捗状況	68.8	68.8	31.2	31.3	0	0
		有効性	75.0	75.0	25.0	25.0	0	0
		効率性	68.8	68.8	31.2	31.3	0	0
歴史と文化遺産の継承	5	進捗状況	100	100	0	0	0	0
		有効性	80.0	100	20.0	0	0	0
		効率性	100	100	0	0	0	0
教育委員会機能の充実	3	進捗状況	100	100	0	0	0	0
		有効性	100	100	0	0	0	0
		効率性	100	100	0	0	0	0

(* 小数点以下第2位で四捨五入をしたため、合計が100%にならないものあり)

この表から明らかなように、まず全体として74の重点取組みの進捗状況・有効性・効率性の多くが評価Aであり、この結果から各施策への取組みが着実に進められていることが理解できます。特に前年度の評価値の%が今年度のものとは異なっている6件のうちの5件(「幼児教育への支援」の効率性、「学校教育の充実」の進捗状況と効率性、「学校教育環境の整備充実」の進捗状況と有効性)は評価が向上しています。例えば、「学校教育の充実」中の取組「教職員による研究成果の充実」の効率性の評価が昨年のBからAに向上していますが、この背後に前年の「研究した成果を広く教職員全員に周知し、活用していくことが必要」という自己評価を受け、平成28年度には「学習指導要領との関連を明確にした「活用の手引き」の作成や成果物をイントラネットにアップしました。」とあるように、具体的な活動となって評価値が上がっていることが分かります。これはまさに Check (評価) から Action (改善) へというシステムが有効に機能していることを示すもので、大いに評価されるべきと考えます。

このように評価システムがうまく機能し、各施策への活動は順調に進められていることがよく見て取ることができます。ただ、こうした順調な活動がさらによく機能するために、あえて更なる改善の余地があるのではと考える点を述べさせていただきます。

先の「【1】報告書に関して」でも述べましたように、評価シートの体裁の変更は全体としては意義のある変更と評価できますが、ただ新たに設けられた「後期基本計画期間全体の自己点検評価」欄に関しては、やや改善の余地があるように思われます。すなわちこの欄に記入されている進捗状況・有効性・効率性に対するA～Cの評価値はまさにそれぞれの取組を後期基本計画期間全体とし

て見たときの評価が書かれるべきところと思われますが、後期基本計画期間の全体としての評価は理解できますが、いかなる基準で評価されているのかが理解しにくいと感じました。例えば施策1-1-1「就学相談の充実」では進捗状況・有効性・効率性すべてAと評価されています。このうち進捗状況と有効性については平成25年度から28年度まですべての年度の評価値はAですので、期間全体の評価として、あと1年を残しているとはいえ、A評価になるのは当然として、平成25年度からの単年度評価がA・B・B・Aの効率性が期間全体の評価としてAとされているケース、あるいは施策2-1-1「きめ細やかな指導体制の推進」では「非常勤職員の配置」「指導補助員の配置」が29年度達成見込み値でもいずれも目標値に達していないにもかかわらず期間全体の進捗状況がAと評価されている例などは、なぜこうした評価になるのか分かりにくいように思われます。数値的目標達成は諸々の理由で困難であってもそれ以外の面で施策の目指すところに近づいたという理由なのかもしれませんが、そのあたりに少し説明不足の感が否めませんでした。後期基本計画の最終年度である平成29年度を対象とする次年度の報告書に向けて、期間全体の評価に向けての原則をより明確にされることを期待します。

また評価シートの「各年度の評価一覧」中の平成28年度の評価に際して申し上げれば、明示された各評価値の基準と実際の評価値との関係について、前年度の報告書で次年度以降更なる運用精度の向上が望まれると指摘させていただきましたが、本年度は評価値と評価基準との齟齬を感じる数は格段に減少し、運用の精度は向上されていると評価できます。ただ、上の「後期基本計画期間全体の点検評価」に関してでも触れた取組ですが、「学校教育の充実」中の「きめ細やかな指導体制の推進」のように、非常勤教員の配置と指導補助員の配置の双方が前年度の実績から後退し、目標値にもかなり遠いにも拘らず28年度の当該年度の進捗状況の評価値がAとされている点など、目標値の設定あるいは評価基準の説明など、改善の余地が残っているように思われました。

【3】全体として

報告書と評価結果について、以上に感想・意見を述べましたが、膨大な時間と労力をかけて行なわれたこの評価作業にまず敬意を表したいと思います。その上で全体を通して強く感じるのは、それだけの時間・労力をかけてなされた評価作業が、単なる「評価作業のための評価」ではなく、Check（評価）からAction（改善）へという本来の評価作業の目的に沿った動きが随所に見て取れることに特に敬意を表したいと思います。

こうした前向きな評価作業を支えているのは、伊勢原の歴史と文化遺産を継承しつつ、地域社会や諸団体と積極的に連携しながら、児童生徒一人一人へのきめ細かな対応を目指す関係者の熱意であり、さらに学校や市民への積極的な情報の発信と、地域や学校現場の声を聴き取ろうとする教育委員会の熱心な姿勢がその大きな支えとなっていると思われまます。

こうした関係者の熱意が、評価作業を通して更なる改善点や改善の手立ての発見につながることで、さらに29年度までの後期基本計画の後も、それを受け継ぐより有効な目標の策定や、柔軟な運用による実効性の向上につながっていくことを期待したいと思います。

（東海大学文学部歴史学科東洋史専攻 特任教授 齋藤道子）

V. 点検評価シート

対象事業：伊勢原市教育振興基本計画 後期基本計画

重点取組 74本

施策	1-1-1	未就学児に関する相談や就学相談機能の充実
----	-------	----------------------

D i a n 【計画】	No.1	就学相談の充実						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	障害のある児童生徒の視点に立って、一人ひとりのニーズを把握し、必要な支援を行い、また、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒へ対応するため、きめ細かな就学指導に努めます。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 29年度まで
		就学相談・指導	実施状況	随時実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の取組内容							
	<p>・就学相談を必要とする保護者を対象に説明会を開催し、就学先候補への見学同行・面接を重ね、保護者の意向を確認しながら進めました。平成28年度は123件の就学相談を行い、うち88件について、伊勢原市就学指導委員会を開催し、就学指導等に関する調査、審議及び判定を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学に係る審議件数 44件 (そのほか、相談のみの件数:35件) ・中学校入学に係る審議件数 24件 ・在籍替えに関する審議件数 20件 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	B	B	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・希望する全ての保護者に対して就学相談を実施しました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・きめ細やかな就学相談を行うことにより、一人ひとりの教育的ニーズの把握ができ、それぞれの状況に応じた就学につながることができています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・就学相談件数の増加に対応し、対象児の状況を的確に把握するために、就学前教育機関等との連携を図りました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・本人や保護者のニーズを踏まえ、対象児の状況を的確に把握する必要があります。また、就学前教育機関等との連携を一層図るとともに、関係部課との連携を図り、切れ目ない支援体制を構築する必要があります。</p>	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・指導主事と教育相談員の協働及び就学前相談機関等との連携により、対象児の状況を的確に把握し、就学相談の充実を図ります。</p> <p>・他部課との連携を一層すすめ、切れ目ない支援体制づくりに努めます。</p>	

施策	1-2-1	家庭の教育力向上に向けた支援
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.1	幼児家庭教育学級の開催						所管	社会教育課
	目的	子育て中の保護者が公民館講座等様々な学習の機会を通じて、子育てに関する不安を解消し、家庭教育のあり方を学びながら、仲間づくりの輪を広げることにより、家庭における教育力の向上を図ることを目的とします。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
	幼児家庭教育学級 新ママセミナー開催	年間講座数 参加者数	29講座 423人	30講座 748人	31講座 747人	30講座 477人	33講座 595人	37講座 630人	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>・各公民館では、幼児を持つ保護者を対象に「幼児家庭教育学級」を開催しました。保育ボランティア制度を活用し、保育付き事業として実施することにより、保護者には子育てに関する知識や技術等について安心して学べる場を、子どもには保育を通じて同年代の子どもたちとの集団生活を体験する場を提供しました。</p> <p>・伊勢原南公民館では、0～1歳児を持つ保護者を対象に「新ママセミナー」を開催し、新米ママの子育てに関する悩みや不安を解消する機会を提供しました。</p> <p>・参加者595人の内訳：親413人、子ども182人</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
効率性	A	A	B	A	—	

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・年度により参加人数に差はあるものの、概ね計画通り講座を開催することができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・家庭教育に関する知識を得るための座学だけでなく、保護者のリフレッシュを図るメニューも取り入れており、孤立しがちな保護者のストレスの解消や仲間づくりを図ることができました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・講座の開催日程や回数等を見直し、効率的に事業を実施することができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・社会環境の変化により核家族化が進む等、子育ての不安や悩みを抱えて孤立したり、育児疲れからストレスを抱えている保護者が多く見受けられます。保育付き講座のように子育て中の保護者が参加しやすい学習環境を整えることで、心身のストレスを軽減したり、仲間づくりを支援したりする効果がありますが、母親のリフレッシュと同時に父親の家事・育児参加を促すような講座の充実が必要です。</p>	
A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・社会教育の視点からのアプローチにとどめることなく、子育て支援課や子ども育成課等市長部局との連携をさらに強化し、子育て中の保護者のニーズに応じた学習機会の提供に努めます。</p>	

施策	1-3-1	幼稚園・保育所と小学校の連携を推進します
----	-------	----------------------

D i a n 【計画】	No.1	幼稚園・保育所と小学校との交流					所管	教育指導課		
	目的	幼稚園・保育所から小学校生活への円滑な適応を図るため、幼稚園・保育所と小学校との交流活動を促進し、子ども一人ひとりの心身の健康と発達状況の情報共有や指導法及びカリキュラムの工夫について研究を進めます。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)	
	各種交流活動の実施	実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施	

平成28年度の実績内容									
D o 【実行】	<ul style="list-style-type: none"> 全小学校において、1年生活科に「ようこそ年長さん」の単元が設けられ、学区内にある認定こども園、幼稚園及び保育所の年長児を小学校に招き、児童と校庭で遊んだり歌ったりするなどの交流活動を行ったり、小学校の授業参観をしました。(5認定こども園、5幼稚園、11保育所と連携し、各小学校が1回以上実施) 全小学校の運動会において、認定こども園、幼稚園及び保育所の年長児を対象としたかけっこなどの競技を行い、幼児や保護者が小学校の様子を直接感じ取れる機会を設けました。 全小学校において低学年担当の教職員等が認定こども園、幼稚園及び保育所を訪問し、子どもの発達状況などの情報を共有する機会を設けました。 								

各年度の評価一覧					
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
進捗状況	A	A	A	A	—
有効性	A	A	A	A	—
効率性	B	B	A	A	—

後期基本計画期間全体の自己点検評価		
進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	各小学校の年間計画に認定こども園、幼稚園及び保育所との交流活動は位置づけられており、計画どおり実施されています。
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> 本交流が職員間の理解を深めています。 年長児の小学校入学前訪問等は、幼児や保護者にとって、入学の動機付けとなっています。
効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	実施回数や時間が限られた中で、有意義な交流活動や教職員間の情報共有が実施されました。
A	A	A

事業推進上の課題	
A c t i o n 【改善】	<ul style="list-style-type: none"> 小学校と認定こども園、幼稚園及び保育所の教職員が相互に理解を図るための時間確保が難しいため、交流活動の実施回数や時間が限られています。 子ども同士の交流がイベント的なもので終わるのではなく、子どもの発達や学びのつながりをより意識した取組となるよう支援する必要があります。
	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> これまで各学校と各施設とで行われている交流活動等が、就学を境とした子どもの学びをつなぐ取組となるよう、必要に応じて指導助言をしております。 小1プロブレムへの1つの対策として、文部科学省や神奈川県教育委員会から紹介されている、小学校1年生におけるスタートカリキュラムについての情報を、各学校に提供していきます。

施策	1-3-1	幼稚園・保育所と小学校の連携を推進します
----	-------	----------------------

D i a n 【計画】	No.2	地域教育機関等連絡協議会の開催						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	幼児・児童生徒の知・徳・体のバランスある成長のために、発達の段階に伴う生活実態についての情報交換を行い、各教育機関の連携とそれらに関わる職員の交流を図り、地域教育機関の連携を深めます。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		地域教育機関等連絡協議会の開催	年間開催数	4回	4回	4回	4回 (1回は意識調査)	4回 (1回は講演会)	4回 (1回は研究発表会と同時開催)	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の実行内容									
	<ul style="list-style-type: none"> 市内にある幼稚園・保育所等(21園)、小中学校(14校)、中等教育学校(1校)、高等学校(3校)、特別支援学校(1校)が集まり、伊勢原市内の幼児・児童生徒の情報交換や各教育機関等の連携、職員や幼児、児童生徒の交流を図るため、年間4回を計画し、計画通りに実施しました。 第3回においては、「ゆめ教育ワークショップ～子ども達たちが楽しみながら夢を発見するアプローチ～」と題して、研修会を行いました。 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	B	A	A	—				
	効率性	B	B	A	A	—				
C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず			平成27年度は焦点化した連携を図るため、グループ構成を変更して実施しました。平成28年度は、各教育機関の意向を踏まえ、これまでのグループ構成に戻して実施しました。					
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い			職員同士の連携及び交流、情報交換を行うことにより、児童生徒の発達の段階による違いへの理解を深めることができています。					
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要			ブロック毎の取組は、継続的な取組となって継承されています。					
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> 参加しやすい時期を検討し開催する必要があります。 各担当者の交流に加え、他の教職員への周知するなどして、学習指導要領改訂に基づく、学校段階等間の円滑な接続を、引き続き図る必要があります。 									
A c t i o n 【改善】	今後の方向性									
	毎年11月に実施していた全体研修会を、夏季休業中に行う研究発表会と合同開催とします。									

施策	2-1-1	確かな学力の育成
----	-------	----------

D i a n 【計画】	No.1	小学校教科担当制等の推進						所管	教育指導課
	目的	小学校高学年において教科担当制を推進し、小中学校連携によりきめ細やかな学習指導、生活指導の充実を図ることで、児童の学力向上と円滑な中学校生活への適応を図ります。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
	非常勤講師の配置	配置人数	0人	1人	1人	2人	3人	3人	4人

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>・昨年度に引き続き桜台小学校の5、6年生を対象に、伊勢原中学校の英語科教員を派遣(桜台小、伊勢原中兼務)し、教科の専門教員による授業を行うとともに、中学校には派遣教員の担当授業を補充するための非常勤講師を配置しました。また、比々多小学校に中学校理科免許を持つ非常勤講師を配置しました。</p> <p>・伊勢原小学校の5、6年生を対象に、中沢中学校の理科教員と非常勤講師を派遣(伊勢原小、中沢中兼務)し、教科の専門教員による授業を行いました。</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	C	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画どおり非常勤講師を任用することができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・アンケート調査から実施校では中学校への円滑な接続に一定の効果が見られました。また、児童や保護者が担任以外の教員からも指導を受けることに対して高評価であること等が明らかとなりました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・中学校教員の小学校兼務配置を行うA方式と、中学校教員免許を持つ非常勤講師を小学校に配置するB方式を実施することで、今後の小学校教科担当制の推進に向けた実証が可能となっています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・中学校教員が小学校を兼務するための後補充や、直接小学校に配置するための非常勤講師の人材をいかに確保するか、また、小学校を兼務する中学校教員の負担をいかに軽減するかが大きな課題となっています。	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・中学校教員免許をもつ非常勤講師を配置する方式においても、高学年の学級における教科担当制が推進されることから、当面2つの方式で事業の推進を図っていきます。また、研究成果をいかに他の小中学校に広めていか、非常勤講師未配置校に対する支援について、引き続き検討していく必要があります。さらに、学校教育課人事係との連携を強化し、適正な人材の確保に努めていきます。	

施策	2-1-1	確かな学力の育成
----	-------	----------

D i a n 【計画】	No.2	きめ細やかな指導体制の推進						所管	教育指導課	
	目的	全ての子どもに、変化の激しい社会で「生きる力」を身に付けさせるために、きめ細やかな学習指導体制を推進することを目的とします。確かな学力をはぐくむために、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを探求し、活用する学習の推進を図ります。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
		非常勤職員の配置	配置人数	小学校 4人	小学校 3人	小学校 3人	小学校 2人	小学校 1人	小学校 2人	小学校 4人
		指導補助員の配置	配置人数	小学校(12人) 中学校(5人)	小学校(10人) 中学校(5人)	小学校(12人) 中学校(5人)	小学校(11人) 中学校(5人)	小学校(10人) 中学校(5人)	小学校(11人) 中学校(5人)	小学校(18人) 中学校(8人)

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>平成28年度の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 全小学校で、1、2年生の35人以下学級を実施しました。2年生での実施にあたっては、県から加配された人員をあてて対応することが必要なため、市では少人数指導等に当たる人員の補填として、当該の1校に非常勤講師を配置しました。 各校の実態に応じて対象学年や教科を定め、1学級を分割して学習する少人数指導等を実施しました。 小学校に10人(成瀬小2名、その他大山小学校を除く各小学校に1名)、中学校に5人(伊勢原中2名、その他の各中学校に1名)の指導補助員を配置し、集団生活への適応支援や学習指導の補助を行いました。 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<input checked="" type="radio"/> 小学校低学年における35人以下学級の編制や小中学校における少人数指導等を実施するとともに、小中学校に指導補助員を配置することで、児童生徒の学力の向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<input checked="" type="radio"/> 全小学校で、1～2年生の35人以下学級による指導が実施され、きめ細やかな指導体制を実現できました。 <input checked="" type="radio"/> 小中学校で少人数指導やチームティーチングを実施することで、きめ細やかな指導を行うことができました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<input checked="" type="radio"/> 各小中学校の該当学年の人数や学級数に応じた人員を配置することができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 今後、小学校35人以下学級の対象学年の拡大など、更にきめ細やかな学習指導体制の確立が求められています。 認定こども園、幼稚園及び保育所から小学校への円滑な移行のため、基本的な生活や学習の習慣が身に付くよう、きめ細やかな指導体制を整えていく必要があります。そのため、小学校指導補助員の複数配置等のあり方について検討する必要があります。 	
	今後の方向性	

<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に馴染めない子どもや集団生活が苦手な子どもに対応する子どもの生活習慣の確立や集団生活へ適応できるよう、指導補助員を配置し、小1プロブレムの解消を図ります。 より効果的な指導体制の構築に向けて少人数指導等に係る調査研究を継続します。

施策	2-1-2	豊かな人間性の育成
----	-------	-----------

D i a n 【計画】	No.1	道徳教育・人権教育の推進						所管	教育指導課	
	目的	基本的な生活習慣や規範意識を身につけ、他人への思いやりが持てる豊かな心を持った児童生徒の育成を目指します。人権を尊重し、好ましい人間関係を育て生命の尊さや社会的弱者への理解を深める取組を推進するとともに、いじめなどをしない他人を思いやることのできる人間性を育むことを目的としています。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		道徳教育全体計画及び年間指導計画に基づいた指導	実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>・学校では、道徳教育全体計画や年間指導計画に基づき、道徳教育及び人権教育を実施しました。</p> <p>・教育委員会では、道徳教育推進教師を対象とした研修会を実施し、各校の実績について情報交換や協議を行うことで、学校における道徳教育の充実を図りました。</p> <p>・人権教育の専門家を学校に招き、話を聴く人権移動教室を高部屋小学校で実施しました。</p> <p>・人権教育推進校として指定した成瀬中学校の研究推進に向けて支援をしました。</p> <p>平成26～28年度人権教育推進校成瀬中学校 研究報告会 10月27日(木)</p> <p>研究主題「思考力・判断力・表現力を高め、人との関わりを大切にする人間性豊かな生徒の育成を目指して～言語活動の充実を通して～」</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<p>・各学校において、道徳教育及び人権教育を計画どおり実施することができました。</p> <p>・教育委員会による各取組についても計画どおり実施することができました。</p>
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<p>・各学校において、全体計画や年間指導計画に基づいた実践が定着し、組織的・計画的な道徳教育及び人権教育の推進が図られています。</p>
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<p>・道徳教育をテーマとした4年次教員研修会及び道徳教育推進連絡会、並びに人権教育研修会等及び人権教育関係研究大会への派遣を計画通り実施しています。</p>
		A	A

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・道徳教育及び人権教育については、いじめの未然防止の観点等からも、ますます重要性が高まっているため、今後も、学校及び教育委員会による継続的な取組や研究活動が必要です。</p> <p>・道徳教育については、道徳の時間の教科化にともない、一人ひとりのよさを伸ばし成長を促すための評価、多様で効果的な道徳教育の指導方法の2点について、重点的に研究を深める必要があります。</p>	
	今後の方向性	
<p>・道徳教育及び人権教育については、今後も学校及び教育委員会による継続的な取組や研究活動を進めます。</p> <p>・道徳の時間の教科化にともない、道徳教育推進連絡会や4年次教員研修会において、評価や指導方法についての研究・協議を重点的に進めます。</p>		

施策	2-1-2	豊かな人間性の育成
----	-------	-----------

D i a n 【計画】	No.2	伝統や文化等に関する教育の推進						所管	教育指導課	
	目的	本物にふれる体験や感動を通して、児童の感性、表現力、想像力を磨き、児童の「生きる力」と豊かな人間性の育成に努めます。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		音楽鑑賞及び演劇鑑賞	年間開催数	各1回	各1回	各1回	各1回	各1回	各1回	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の取組内容									
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生を対象に、小学校演劇鑑賞会を開催しました。 (期日)5月20日(金) (会場)伊勢原市民文化会館大ホール (内容)劇団四季によるミュージカル「エルコスの祈り」の上演 ・小学校5年生を対象に、小学校音楽鑑賞会を開催しました。 (期日)10月25日(火) (会場)伊勢原市民文化会館大ホール (内容)神奈川フィルハーモニー管弦楽団による演奏会 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	全小学校の6年生を対象に小学校演劇鑑賞会と全小学校の5年生を対象に小学校音楽鑑賞会を実施することができました。								
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	児童の感想には、「初めて聴く生の迫力にびっくりした」「様々な楽器のテンポがとてもあって感動した」「他の学校の人と一緒に歌えてより思い出になった」等が寄せられ、成果が上がっています。								
効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の心を育むため、内容等について精査し実施しました。 ・小学校演劇鑑賞会については、劇団四季の協力により、無償での上演を行っています。 								
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の体験活動の充実や心を育む教育の重要性は高まっています。事業の性質上、短期間での成果を図ることは難しいですが、児童の健全な成長を促すために、今後も継続した取組が必要です。 									
今後の方向性										
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童が本物にふれる体験や感動を通して、児童の感性、表現力、想像力を磨き、児童の「生きる力」と豊かな人間性の育成につながるよう、体験活動の充実や心を育む教育を推進します。 										

施策	2-1-2	豊かな人間性の育成
----	-------	-----------

D i a n 【計画】	No.3	読書活動の推進						所管	教育指導課
	目的	読書に親しみが持てる取組の推進と読書環境の整備を図り、学校図書館の利用の増加とともに読書活動が促進され、児童生徒の豊かな感性と心を育むことを目的とします。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
	伊勢原市読書感想文コンクールの実施	年間実施回数	1回 (夏休み)	1回	1回	1回	1回	1回	継続実施
	小学生に対する「読み聞かせ」	実施状況	年間を通じて実施	年間を通じて実施	年間を通じて実施	年間を通じて実施	年間を通じて実施	年間を通じて実施	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>・小中学生を対象に、「伊勢原市読書感想文コンクール」を実施し、受賞した児童生徒を表彰するとともに、読書感想文集を各校や市図書館に配布しました。 (平成27年度実績)参加児童生徒数小学校2, 257名中学校1, 706名 (平成28年度実績)参加児童生徒数小学校2, 238名中学校1, 526名</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画どおり「伊勢原市読書感想文コンクール」や全校一斉の朝読書、「読み聞かせ」を実施することができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・取組の実施により、全児童生徒が読書の楽しさやすばらしさを体験し、感動する機会となりました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・読書感想文コンクールを実施して、読書の推進を図りました。 ・「読み聞かせ」の実施に当たっては、各学校と保護者、ボランティア団体との協働の充実が図られました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・児童生徒の利用がより図られるよう学校図書館の運営にさらなる工夫改善が必要です。学校図書館の活用状況における課題を示し、具体的な活用方法について検討したり、より児童生徒が利用しやすい書架の配置の工夫について話し合ったりするなど、各校の創意ある工夫が行われるよう、各校の担当者での情報交換を大切にします。</p>	
A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・引き続き、読書活動の推進をするため、全学校における「伊勢原市読書感想文コンクール」を実施するとともに、全小学校において「読み聞かせ」活動を実施します。 ・学校図書館教育推進連絡会において、教育委員会と各校の図書担当者との連携を図り、読書活動の実践について情報交換を行い、児童生徒の読書活動推進の手立てなどについて話し合います。</p>	

施策	2-1-2	豊かな人間性の育成
----	-------	-----------

P l a n 【 計 画 】	No.4	学校図書館の整備充実						所管	教育指導課
	目的	小学校及び中学校図書館の整備を推進し、読書環境の整備及び学習・情報センターとしての機能の向上を図ることで、児童生徒の読書活動の充実を図ります。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
	学校図書館の図書標準達成率	蔵書数	小学校84.4% 中学校70.2%	小学校85.7% 中学校75.0%	小学校89.3% 中学校78.1%	小学校89.5% 中学校79.6%	小学校91.4% 中学校81.0%	小学校95% 中学校83%	小学校100% 中学校85%
	1校あたりの図書整備員の派遣	年間派遣回数	8回 (年間)	8回 (年間)	8回 (年間)	8回 (年間)	8回 (年間)	8回 (年間)	継続実施
D o 【 実 行 】	平成28年度 of 取組内容								
	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の学校図書館に、計画的に図書を購入しました。 平成28年度増加冊数10小学校計1,154冊、4中学校計1,338冊 小中学校の学校図書館に図書整備員(2名)を定期的に派遣しました。 図書整備員:(資格等)司書の有資格者又は図書館整備の経験者(派遣回数)各校に月1回程度、年8回、1回4時間(主な業務)図書、資料の分類や整理、修理等 								
C h e c k 【 評 価 】	各年度の評価一覧								
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
	進捗状況	A	A	A	A	—			
	有効性	A	A	A	A	—			
	効率性	B	B	B	B	—			
後期基本計画期間全体の自己点検評価									
進捗状況	A	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の蔵書の充実を図るため、計画的に図書を購入するとともに、定期的に派遣した図書整備員により、学校図書館の整備に努めることができました。 						
有効性		<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のニーズに応じた図書を計画的に配備することや、図書整備員の環境整備により、児童生徒の読書活動を促進することができました。 						
効率性		<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書冊数の増加だけでなく、古くなった図書の廃棄も含めて、児童生徒の実態やニーズに応じた図書の配備をする必要があります。 						
A c t i o n 【 改 善 】	事業推進上の課題								
	<ul style="list-style-type: none"> 現在の課題や最新の情報、児童生徒の実態にあった図書の整備をするため、廃棄と購入をバランスよく行い、図書を配備していきます。 学校図書館を「学習・情報センター」「読書センター」としていつも使いやすい環境にするために、学校図書館整備員を定期的に派遣し、環境整備に努める必要があります。 								
今後の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館が読書センターの機能を果たすよう、今後も計画的に図書を購入し、蔵書の充実に努めるとともに、読書環境の整備を図るため、継続して図書館整備員を派遣します。 児童生徒の利用がより図られるよう、学校図書館の運営が推進されるために、学校司書の配置も含めた検討が必要です。 									

施策	2-1-3	健康の保持増進・体力の向上
----	-------	---------------

D i a n 【計画】	No.1	定期健康診断及び感染症予防への取組						所管	学校教育課	
	目的	児童生徒の健やかな学校生活の確保に努めます。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		健康診断の実施	年間実施回数	実施(1回)	実施(1回)	実施(1回)	実施(1回)	実施(1回)	実施(1回)	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の取組内容									
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校医等による児童生徒を対象とする定期健康診断を実施し、健康状態及び成長状態を確認するとともに、必要に応じて精密検査・再検査を促すなど、疾病予防を行いました。 ・就学予定の児童を対象に、学校医等による就学時健康診断を行い、内科及び歯科に関する健康状態の把握及び必要な助言を行いました。 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
後期基本計画期間全体の自己点検評価										
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<input checked="" type="radio"/> 定期健康診断、就学時健康診断は計画どおり実施することができました。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<input checked="" type="radio"/> 健康診断は、児童生徒の健康状態を把握するために非常に有効であるだけでなく、保健教育の機会としても有効です。							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<input checked="" type="radio"/> 学校医等、関係機関と連携することにより、効率的に実施されています。							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断等の従来の取組に加えて、今日的課題として、新型インフルエンザ等の感染症やアレルギーについて、関係機関との連携を図りながら、取り組む必要があります。 									
今後の方向性										
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康保持増進のため、関係機関と連携しながら、定期健康診断等の保健事業に取り組みます。 ・児童生徒に手洗い・うがい歯磨きの励行等の生活習慣のより一層の定着を進めるとともに、関係機関の連携を強化し、感染症防止対策に取り組みます。 										

施策	2-1-3	健康の保持増進・体力の向上
----	-------	---------------

D i a n 【計画】	No.2	体力テスト結果の分析・検証						所管	教育指導課	
	目的	体力テスト結果を分析・検証し、伊勢原市の児童生徒の特徴を把握した中で、児童生徒の体力向上と健康保持増進を目指します。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		体力テストの実施及び分析・検証	年間実施数	1回	1回	1回	1回	1回	1回	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の実行内容									
	<ul style="list-style-type: none"> 全小中学校で新体力テストを実施しました。(小学校5年生、中学校2年生は国による悉皆調査、他学年は各学校で発達の段階に応じて種目を選択して実施) 学校では、結果データから児童生徒の特徴を把握した上で、外遊びの奨励等の体力の向上に向けた取組を実施しました。教育委員会では県教育委員会と連携し、指導資料や啓発資料を学校に提供することで学校の取組を後押ししました。 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	B	A	A	A	—				
	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<input checked="" type="radio"/> 計画通り全小中学校で体力テストを実施し、結果データを基に体力向上に資する取組を推進しました。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<input checked="" type="radio"/> 体力テストの結果を、児童生徒の体力向上と健康保持増進に向けた授業づくりや児童生徒の意識向上に活用することができました。							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<input checked="" type="radio"/> 限られた保健体育の時間数の中で、効率よく体力テストを実施するための工夫改善に努めるため、県教育委員会の指導資料を活用しました。							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> 体育・保健体育の授業における運動量の確保と、児童生徒の発達の段階に見合った運動実践ができるような教材研究を行い、学校体育の一層の充実を図る必要があります。 小学校において、休み時間に屋外で集団で遊ぶことが少ない傾向が見られることから、外遊びを奨励する必要があります。 									
	今後の方向性									
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校教育研究会の保健体育部会等において、体力テストの測定方法等の工夫改善や分析結果を踏まえた体力向上の取組について協議をし、児童生徒の体力向上と健康保持増進を目指していきます。 小学校ではドッジボール大会等、スポーツ大会の実施を通じて楽しみながらの体力向上、中学校では毎回の体育の授業において、授業のねらいに応じた体力作り運動を通じて体力向上を図ります。 									

施策	2-1-3	健康の保持増進・体力の向上
----	-------	---------------

D i a n 【 計 画 】	No.3	授業及び部活動への専門家等の派遣						所管	教育指導課	
	目的	専門的な技術を有する地域住民を指導協力者として派遣し、部活動や体育授業の活性化を図ることにより、児童生徒が心身ともに健康で、明るく活力ある生活を営む一助とします。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)	
	授業等への専門家 の派遣	年間 派遣者数	水泳・柔道 ラグビー 他	7人	8人	6人	14人	10人	継続実施	
	部活動指導協力者 の派遣	年間 派遣者数	20人	31人 (ボランティア含)	33人 (ボランティア含)	38人 (ボランティア含)	42人 (ボランティア含)	39人 (ボランティア含)	継続実施	

D o 【 実 行 】	平成28年度の実行内容								
	<ul style="list-style-type: none"> 授業への専門家の派遣 小学校7校にラグビーの専門家を派遣して、安全面や技術面でより専門性の高い指導を実践することができました。 部活動指導協力者の派遣 中学校の運動部活動及び文化部活動に部活動指導協力者(42人)の協力を得て、指導の充実を図りました。 								

C h e c k 【 評 価 】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	B	A	—

C h e c k 【 評 価 】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	指導する教職員の研究と取組に加え、外部の指導協力者の派遣を行うことで、より専門性の高い指導が実践されています。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	指導する教職員の研究と取組に加え、外部の指導協力者の派遣を行うことで、専門性の高い指導が実践され、体育授業や中学校の部活動が活性化し、児童生徒が充実した学校生活を送っています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	部活動において、専門的な指導を必要とする種目に対して、学校からの要望に応じて派遣することができました。指導回数も年間計画通り行うことができました。

A c t i o n 【 改 善 】	事業推進上の課題	
	各学校においてスポーツ活動を奨励し、児童生徒が積極的に体育や部活動に取り組めるようにするためには、専門性の高い指導が求められます。部活動では多くの種目に対応できるよう、指導協力者の人材の確保とともに、指導協力者の高齢化も課題になっています。	
	今後の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 中学校の生徒が安全に充実した部活動に参加できるよう環境整備・充実に努めます。 授業への専門家の派遣については、関係機関や近隣の大学等と連携し、実施方法について検討していきます。 		

施策	2-1-4	小中連携と異校種間連携の推進
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.1	小中学校9年間を見通した教育活動の推進						所管	教育指導課	
	目的	小中学校の教職員間で相互理解を深めるとともに、児童生徒に関する協働体制の構築を図ることで、小中学校9年間を見通した授業づくりや、児童生徒が小学校から中学校へ円滑に進学できることを目的としています。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
		小中学校教職員の交流 (情報交換・研究会)等	年間開催数	18回	18回	17回	22回	29回	29回	25回
D o 【実行】	平成28年度の実績									
	<ul style="list-style-type: none"> 各中学校区では小中学校交流会や情報交換会を計29回実施し、授業公開や教科部会での協議、情報交換等を行いました。(山王中学校区11回、成瀬中学校区7回、伊勢原中学校区6回、中沢中学校区5回) 各中学校区では、教職員が連携し、学区パトロール、ふれあい給食、出前授業、部活動発表、母校訪問、挨拶運動、といった取組を行いました。 教育委員会では、教職経験10年目の教員を対象とした研修会を開催し、異校種の学校で授業実践等を行いました。(小学校教員4名を中学校へ派遣、中学校教員4名を小学校へ派遣) 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	B	A	A	A	—				
後期基本計画期間全体の自己点検評価										
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校交流会等は、年度当初の計画通り実施されています。 教職経験10年目の教員を異校種の学校へ派遣し、授業実践を含めた実習を行い、その後の小中連携に資することができました。 							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の教職員間で、教科指導や児童生徒指導についての情報交換や協議を行い、児童生徒に関する協働体制の構築を図ることができました。 							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校交流会は、年間計画に位置づけられ、各地域の状況に応じた内容で協議等が行われています。 個別事案に対して、小中の教職員で迅速な対応が図られています。 							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> 本市の小学校教科担当制推進事業や中学校区ごとの交流会など、小中一貫教育につながる取組について充実を図るとともに、小中一貫教育における国や県の動向をふまえ、研究していく必要があります。 									
今後の方向性										
<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育についての国や県が行う様々な会議や研修会に参加し、研究を深め、周知を図ります。 										

施策	2-1-4	小中連携と異校種間連携の推進
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.2	小中学校と高等学校及び特別支援学校等の連携						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	児童生徒の知・徳・体のバランスの良い成長を図るとともに、校外における児童生徒の非行防止ならびに健全育成を図ることを目的としています。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		地域教育機関等連絡協議会の開催	年間開催数	4回	4回	4回	4回 (1回は意識調査)	4回	4回	継続実施
		学校警察連絡協議会の開催	年間開催数	5回	5回	5回	5回	5回	5回	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>・前年度に実施した意識調査の結果を踏まえ、一昨年度までのグループ構成に戻して、4回実施しました。各ブロックでは、それぞれの研究テーマに沿った活動や研究協議が行われました。</p> <p>・学校警察連絡協議会(年5回)及び研修会(年1回)を実施し、児童生徒の問題行動の早期発見、予防対策に関する情報交換とその実践を行いました。またいじめ防止等連絡協議会(年2回)を開催しました。</p> <p>・学校警察連絡協議会には、市内の小中学校、県立高等学校・特別支援学校、私立の高等学校、中等教育学校、警察、少年相談保護センター、児童相談所、市役所関連課の代表と担当者が参加しました。</p>							

C h e c k 【評価】		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価					
	進捗状況	● 計画どおり ○ 概ね計画どおり ○ 計画どおり進捗せず	<p>・地域教育機関等連絡協議会を計画どおり年4回開催しました。</p> <p>・学校警察連絡協議会兼いじめ防止等連絡協議会を開催し、児童生徒の問題行動及びいじめ防止の取組を実施することができました。</p>			
	有効性	● 高い ○ 普通 ○ 低い	<p>・地域教育機関等連絡協議会、学校警察連絡協議会兼いじめ防止等連絡協議会を通じて、職員の連携・交流、情報交換を行うことにより、教育機関等の活動に活かすことができています。</p>			
	効率性	● 効率的に実施された ○ 改善の余地がある ○ 抜本的な改善が必要	<p>・地域教育機関等連絡協議会、学校警察連絡協議会兼いじめ防止等連絡協議会の内容について見直しを図り、複雑化する児童生徒の指導上の課題について適切な対応を図りました。</p>			

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題					
	<p>・地域教育機関等連絡協議会の関係各機関が参加しやすい時期を検討し、開催する必要があります。</p> <p>・いじめの問題など、児童生徒の問題行動に対して、教職員のさらなる対応力向上を図ることが不可欠であり、予防対策に関する情報交換と早期発見、早期解決に向けた取組の研修、研究を行う必要があります。</p>					

A c t i o n 【改善】	今後の方向性					
	<p>・地域教育機関等連絡協議会は、11月に実施していた全体研修会を、夏季休業中に行う研究発表会と合同開催とします。</p> <p>・学校警察連絡協議会兼いじめ防止等連絡協議会では、児童生徒の問題行動及びいじめ問題に対応するために、早期発見、予防対策に関する情報交換と研修を行い、より効果的な情報共有を目指していきます。</p>					

施策	2-2-1	豊かな体験活動の推進
----	-------	------------

D i a n n 【計画】	No.1	豊かな体験活動の推進					所管	教育指導課		
	目的	学校では、自然体験、職場体験、奉仕活動、文化芸術鑑賞等、地域や児童生徒の実態に応じ、創意ある教育活動及び体験活動を行うとともに、学習の場を市立図書館・子ども科学館に移し、施設・設備を有効に活用した授業を行うことで、児童生徒の実体験を伴った理解や思考を深めていきます。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		体験活動の実施	実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実績								
	<p>・各学校において、自然体験活動や奉仕活動、職場体験活動、宿泊体験活動、物づくりや生産活動、文化芸術活動等など、様々なふれあい体験活動を実施し、地域の方をはじめ、年間約4千人の方に、教育指導の協力をいただきました。</p> <p>・小学校の4年・6年、中学校の1年を対象に、学習の場を図書館・子ども科学館に移動して行う「移動教室」を実施しました。(実施回数44回)</p>								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	各校において、創意工夫を活かした特色ある教育活動や体験的な学習活動を行っており、年間指導計画にも位置づけられ、計画に沿って行われています。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	各校で、地域の特性を活かした取組や実態に応じた活動が行われており、児童生徒に体験活動が定着しています。また、地域の多くの方に協力をしていただいております、学校と地域をつなぐ取組となっています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	子ども科学館を活用した体験的な学習(移動教室)については、実感の伴った理解が図られ、児童生徒の関心を高めています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・各校において取り組んでいる体験的な活動が、今後の体験活動や普段の授業に活かされるとともに、それらの活動が児童生徒や地域の実態に合った取組となっているかなどについて、研究をさらに進める必要があります。</p>	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・子どもが人やものとの関わりを大切に、様々な体験を積み重ね、その体験を通して、自ら学び自ら考える力や、豊かな人間性や社会性等、豊かな心をはぐくむ教育を推進していきます。</p> <p>・今後も児童生徒の実感の伴った理解を図るために、「移動教室」等の継続実施に努めるとともに、「図書館・子ども科学館学校利用連絡会」を通して、図書館・子ども科学館との連携を深めてまいります。</p>	

施策	2-2-2	国際理解教室の推進
----	-------	-----------

D i a n 【計画】	No.1	外国語教育の推進(ALTの配置)						所管	教育指導課
	目的	小学校の外国語活動及び中学校の外国語科指導の充実のため、ALT(外国語指導助手)の配置を行い、小中学校における国際理解教育の充実、及び小学校外国語活動と中学校外国語科指導における実践的コミュニケーション能力の育成を図ります。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標(29年度迄)
	ALTの配置	年間配置日数	小学校220日 中学校360日	小学校220日 中学校360日	小学校220日 中学校360日	小学校220日 中学校360日	小学校360日 中学校360日	小学校360日 中学校360日	小学校360日 中学校360日
	小学校5・6年生の授業へALT配置	年間配置回数	13回/年	13回/年	13回/年	15回/年	17回/年	17回/年	30回/年
D o 【実行】	平成28年度の実行内容								
	・小学校での外国語活動や中学校での外国語教育を推進するとともに、小中学校を通じた国際理解教育の充実を図るため、各小中学校へALT(外国語指導助手)を配置し、英語力の向上を図りました。								
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧								
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
	進捗状況	A	A	B	A	—			
	有効性	A	A	A	A	—			
	効率性	A	A	A	A	—			
後期基本計画期間全体の自己点検評価									
進捗状況	● 計画どおり ○ 概ね計画どおり ○ 計画どおり進捗せず	・市内14校の小中学校に、計画どおりALTを配置しました。							
有効性	● 高い ○ 普通 ○ 低い	・児童生徒が以前よりも積極的に外国人とのコミュニケーション活動に取り組んでいる姿が見られます。さらに英語の音声の聴き取りに慣れ親しんでいる様子がうかがえるなど、効果を上げています。							
効率性	● 効率的に実施された ○ 改善の余地がある ○ 抜本的な改善が必要	・プロポーザル方式による委託契約会社の選定及び契約後の委託契約会社や担当教員との協議等により、目的に沿った事業推進が図られています。							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題								
	・ALTの配置が行われ、外国語教育の充実のために効果を上げていますが、特に小学校では高学年での年間35時間の外国語活動の時間の中で、17時間の配置となっているため、さらに配置時間を増やしてほしいとの声が上がっています。また、新学習指導要領では外国語教育の充実が計画されており、さらに小学校への配置時間を増やしていく必要があります。								
今後の方向性									
・引き続き、小中学校の担当教員による協議会等を活用し、より有効な事業実施に向けた検討を行うとともに、今後の事業展開を見据え、事業効果や課題をよりの確に把握していきます。									

施策	2-2-2	国際理解教室の推進
----	-------	-----------

D i a n 【計画】	No.2	特色ある教育モデル事業						所管	教育指導課	
	目的	推進モデル校を指定し、先行的な実践及び他校への普及を図ることで、本市の豊かな自然や伝統文化を活かした教育活動やICT機器の利活用、外国語活動を充実させ、郷土への理解と豊かな心を育むとともに、グローバル時代に対応した児童の育成を図ります。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
		モデル校(小学校)におけるALTの授業	年間実施回数	13回	13回	53回	53回	53回	53回	35回

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<ul style="list-style-type: none"> 英語科専科教員(非常勤講師)を配置し、全時間に配置したALTとともに1年生から4年生までは週1時間の外国語活動の時間、5・6年生は週1.5時間の英語科の授業を行いました。 これまでも行ってきた自然体験や伝統文化の学習をカリキュラムに位置づけ、指導の充実を図りました。 タブレット端末を使い教材を提示するほか、児童が1人1台使って、調べ学習やドリル学習、グループ学習での活用、また、作品や発表資料の作成と提示、体育で自分たちの動きを撮影した映像を見てよりよい動きを考えるなど様々な活用方法を実践しました。 市民への取組内容や就学指定校変更制度についての周知を図るため、広報いせはら、市ホームページで情報発信するとともに、事業説明会を開催しました。他の小学校区の児童2名の就学指定校変更を承認しました。 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	B	B	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画どおりに人的配置や機器の配備をすることができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・英語科専科教員やALTの配置による外国語活動や英語科の学習を通して、児童に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育っています。タブレットを活用した授業では、他の学校の参考となる活用例が増えてきています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 英語の授業を公開するなど市内小中学校の教職員に取組内容を周知することができました。 外国語活動・外国語科の年間計画「おおやま英語プラン」が完成しました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の実践をもとに、取組の計画を見直し、改良を加えながら継続していく必要があります。 市内小中学校において、モデル事業の成果が活用できるよう場の設定や周知のあり方の検討が必要です。 完成した「おおやま英語プラン」は、新学習指導要領に合わせて改善を加えていく必要があります。 	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> 大山小学校の英語教育について、実践事例や取組の成果・課題等を関連の会議等で市内全体に周知していくとともに、研究協議を行い、今後の実践に生かすようにします。 	

施策	2-2-2	国際理解教室の推進
----	-------	-----------

D i a n 【計画】	No.3	外国語教育推進連絡協議会の開催						所管	教育指導課	
	目的	小学校と中学校合同の外国語教育推進連絡協議会を開催し、外国語教育に関する小中学校連携の在り方等について協議することで、小中学校における外国語教育の充実を図ります。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)	
	外国語教育推進連絡協議会の開催	年間開催数	2回	2回	2回	2回	2回	2回	継続開催	

D o 【実行】	平成28年度の取組内容								
	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初と夏季休業中に外国語教育推進連絡協議会を開催し、外国語教育における小中学校連携の在り方やALT(外国語指導助手)の配置について協議を行いました。 								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画移管全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画どおり、年間2回の協議会を開催し、小中学校の連携を図りました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・小中学校相互の外国語教育の目標や指導内容の違いを知り、その上でそれぞれの指導に役立てることができました。また、新学習指導要領実施に向けての情報提供も行いました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・年間2回の開催で、ALTの配置の調整や、小中連携のための情報交換などを効率的に行うことができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・会議に出席した教員は小中連携の必要性を改めて実感することができました。今後は新学習指導要領全面実施に向け、会議の内容を各所属校において周知され、各校における外国語教育をさらに推進するようする必要があります。 	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、年間2回の協議会の中で、相互の外国語教育の目標や指導内容の違いを知り、それを踏まえてそれぞれの指導にあたるような気付きを促し、小学校外国語活動から中学校外国語科への滑らかな接続が行われるよう協議を行います。 ・新学習指導要領全面実施に向け情報提供を行い、所属校に周知していく取組を行います。 	

施策	2-2-2	国際理解教室の推進
----	-------	-----------

D i a n 【 計 画 】	No.4	外国につながるのある児童生徒への支援						所管	教育指導課	
	目的	日本語指導が必要な外国籍児童生徒等が在籍する学校に日本語指導協力者を派遣し、生活や学習に必要な日本語を指導すること等で、学校生活への円滑な適応を目指します。また、当該児童生徒の外国での生活や外国の文化に触れた体験を授業等で活かすことで、他の児童生徒の異文化を理解し共に生きていこうとする姿勢を育てます。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		児童生徒1人当たりの平均指導時間	年間指導時間	小学校28時間	小学校18時間	小学校20時間	小学校17時間	小学校13時間	小学校16時間	小学校40時間
				中学校28時間	中学校16時間	中学校19時間	中学校12時間	中学校11時間	中学校12時間	中学校40時間

D o 【 実 行 】	平成28年度の実績							
	<p>・日本語指導が必要な外国籍児童生徒5名以上在籍する国際教室を平成27年度の2校から5校に拡大し、高部屋小学校、比々多小学校、桜台小学校、山王中学校、成瀬中学校、伊勢原中学校に設置しました。また、日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校に日本語指導協力者を派遣し、外国につながるのある児童生徒の日本語指導や学習支援、保護者面談や教育相談等を行いました。</p> <p>【平成28年度派遣実績】 対象校:13校(小9, 中4) 対象児童生徒数:79名(小52, 中27) 対象協力者実人数:12名 協力者派遣総時間:998時間(小677, 中321)</p>							

C h e c k 【 評 価 】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	B	B	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	B	—

C h e c k 【 評 価 】	後期基本計画期間全体の自己点検評価	
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず
	A	・「日本語指導協力者」の派遣を行い、外国につながるのある児童生徒の日本語指導や学習支援、保護者の支援に努めました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い
A	・外国につながるのある児童生徒が生活し学習をする上で、また全児童生徒への国際理解教育を進める上で、日本語指導や国際教室は重要な役割を果たしています。	
効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	
B	・外国につながるのある児童生徒の増加及び日本語指導を必要とする児童生徒の増加に伴い、更なる派遣日数の増加が必要となっています。	

A c t i o n 【 改 善 】	事業推進上の課題	
	・外国につながるのある児童生徒の増加及び日本語指導を必要とする児童生徒の増加に伴い、更なる派遣日数の増加が必要となっています。また、外国につながるのある児童生徒の母語が多様化しており、母語に対応できる日本語指導協力者を派遣することが難しい場合もあります。	

A c t i o n 【 改 善 】	今後の方向性	
	<p>・外国につながるのある児童生徒が安心して学校生活が過ごせるよう、必要性に即した日本語協力者の派遣を行います。また、全児童生徒を対象とした国際理解教育のさらなる充実に努めます。</p> <p>・引き続き、外国につながるのある児童生徒の外国での生活や外国の文化に触れる体験を授業等で活かす取組の充実に努めます。</p>	

施策	2-2-3	情報・環境・キャリア教育の推進
----	-------	-----------------

D i a n 【計画】	No.1	情報教育の推進(教育用PCの整備)						所管	教育指導課
	目的	各教科等において、情報通信技術(ICT)を活用した効果的な授業が実施できるよう、小中学校に教育用コンピュータを計画的に増設し、情報教育を推進していきます。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
	児童生徒用パソコンの設置	設置台数	小学校411台	小学校495台	小学校505台	小学校505台	小学校508台	小学校508台	小学校551台
			中学校221台	中学校221台	中学校221台	中学校221台	中学校231台	中学校231台	中学校281台
D o 【実行】	平成28年度の取組内容								
	<p>・大山小学校にタブレット端末を3台導入しました。また、伊勢原中学校第2パソコンルームのPC入替えを行い、更に7台タブレット端末を導入しました。その他3中学校には1台ずつタブレット端末を導入しました。児童生徒の情報活用能力を育むとともに、各教科等の授業で活用される環境を整えました。児童生徒への情報モラル等の指導力を高めるため、情報教育研修会を開催しました。</p>								
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧								
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
	進捗状況	A	A	A	A	—			
	有効性	A	A	A	A	—			
	効率性	B	B	B	A	—			
後期基本計画期間全体の自己点検評価									
進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず		<input checked="" type="radio"/> 計画どおりにコンピュータ機器の入替えを行うとともに、情報教育研修会を開催することができました。						
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い		<input checked="" type="radio"/> 導入されたタブレット端末は授業での活用が広がっています。また、情報教育研修会で学んだ知識が、情報モラル教育等の授業に生かされています。						
効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要		<input checked="" type="radio"/> 機器やソフトが新しくなり、授業で活用できる環境が整ってきています。						
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題								
	<p>・導入された機器が、様々な教科等の授業の中で活用されていますが、さらに有効活用されるように環境を整備し、教職員の指導力を高めていく必要があります。</p>								
今後の方向性									
<p>・各中学校に数台ずつ、教室等へ持ち運べるように配備している教育用ノートPCについては、導入から年数もたち、買換えの必要があるため、予算化を図っていきます。また、教職員のさらなる活用のスキルを磨く研修会を充実させていきます。</p>									

施策	2-2-3	情報・環境・キャリア教育の推進
----	-------	-----------------

D i a n 【計画】	No.2	環境教育の推進						所管	教育指導課		
	目的	児童生徒が環境についての理解を深めることができるよう、各小中学校において各教科や領域の中で、あるいは教科等を横断して環境教育に取り組めるよう支援していくことを目的としています。									
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)		
	環境教育の実施	実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施		
D o 【実行】	平成28年度の実行内容										
	<p>・伊勢原で見ることのできる植物について名称や遊び方の例を示した生活科・理科副読本「いせはらのしよくぶつ」を全小学校1年生に配布し、授業での活用を図りました。さらに、市環境保全課の協力のもとに作成した教員向けの手引書「伊勢原環境学習プログラム」の活用を促進し、環境学習の推進を図りました。</p>										
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧										
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度					
	進捗状況	A	A	A	A	—					
	有効性	A	A	A	A	—					
	効率性	B	A	A	A	—					
	後期基本計画期間全体の自己点検評価										
進捗状況	A	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず		・環境教育研修会の開催、「いせはらのしよくぶつ」の配布などを通して、計画どおり環境教育の推進を図りました。							
有効性	A	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い		・教材整備等により、各学校において環境教育が実施されました。							
効率性	A	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要		・効率的に教職員の指導力の向上を図ることができました。							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題										
	<p>・様々な教科や領域等で、あるいは教科を横断して充実した環境教育に取り組めるよう、今後も継続して教職員への啓発や教材等の整備に努める必要があります。</p>										
	今後の方向性										
<p>・持続可能な社会の構築に向け、児童生徒の発達の段階に応じた自然体験活動等の充実を図り、主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を図れるよう、教職員の指導力の向上や教材等の整備に努めます。</p>											

施策	2-2-3	情報・環境・キャリア教育の推進
----	-------	-----------------

D i a n 【計画】	No.3	キャリア教育の推進						所管	教育指導課	
	目的	発達段階に応じたキャリア教育を組織的・系統的に実施することで、児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を育てます。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
		中学2年生の職場体験 日数	年間 実施日数	1日	1日	1日	1日	1日	1日	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実施内容							
	<p>・全中学校2年生が1日日程で市内企業等を中心に希望職種を選択して体験活動を実施し、家庭、地域、関係機関との連携の下に、子ども一人ひとりが、自らの希望にあった進路を主体的に選択できる能力や態度の育成に努めました。</p> <p>・全小中学校において、地域の方を講師や学習ボランティアとして招き、体験活動等を行うことで、望ましい勤労観を育む一助としています。</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	B	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・職場体験活動等によるキャリア教育を行うなど、自らの希望にあった進路を主体的に選択できる能力や態度の育成に努めました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・一人ひとりが将来の在り方・生き方について考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育むことができました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・発達段階に応じたキャリア教育を、より組織的・系統的に実現するために、関係機関と連携を図り小中学校が職場見学や職場体験の活動が受け入れられるよう支援しました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・急激な社会情勢の変化に伴い、中学生の進路選択は多様化し、高等学校では新たな教育ニーズに対応すべくさまざまな取組が次々と進められています。さらに、職業の選択肢も多様化してきています。小中学校を通じたキャリア教育を発展させ教育活動を充実させるためには教職員対象の研修・研究を充実させ、工夫した取り組みが必要です。</p>	
A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・児童生徒一人ひとりが将来の在り方・生き方について考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育むことができるよう、発達の段階に応じた計画的・体系的なキャリア教育を進めていきます。また、義務教育の9年間を見通した系統的な取組を行うため、キャリア教育においても小中学校での共通理解を図ります。</p>	

施策	2-2-4	食育・学校給食の推進
----	-------	------------

D i a n 【計画】	No.1	中学校給食導入検討						所管	学校教育課	
	目的	次代を担う子どもたちの健やかな成長と望ましい食習慣の形成を図り、心身ともに健全な発達を図ることを目的に、自校調理式給食を理想として、中学校給食の実現にかかる課題の検討を進めます。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		給食を導入するための手法検討	進捗状況	検討	検討	検討	検討	検討	方針決定	方針決定
D o 【実行】	平成28年度の実行内容									
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校給食の現状について、各市の状況を調査するとともに、親子方式による東京都調布市及びランチボックス(保温カート)方式による大阪府枚方市の中学校給食の現状について視察を実施しました。 ・スクールランチの充実に向けて、関係者との情報交換に努めました。 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	B	B	B	B	—				
	有効性	B	B	B	B	—				
	効率性	B	B	B	B	—				
C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
	進捗状況	<input type="radio"/> 計画どおり <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず			・主として情報収集によって、自校調理式の利点と低コストでの導入の両方を兼ね備えた手法を検討しました。					
	有効性	<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い			・導入可能な手法の確立までは不十分ですが、様々な手法を検討するための資料を得ています。					
	効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要			・導入可能な手法を確立するためには、幅広い視野での検討・研究が必要です。					
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校給食については、食育の推進、保護者、生徒への昼食支援の観点から重要であると認識していますが、イニシャルコスト・ランニングコストともに財政負担が大きいのが課題です。 ・昼食時間の拡大による生徒への授業日程等の負担や部活動の時間等、学校現場における課題に対し再検証が必要です。 									
A c t i o n 【改善】	今後の方向性									
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な手法の検討結果を等を踏まえ、財政の健全化への取組と整合性を図った中で、課題を整理し、自校給食の利点、低コストでの導入の両方を兼ね備えた手法を教育委員会議で協議していきます。 ・当面、弁当を持参できない生徒への昼食支援策として、スクールランチを継続して実施していくとともに、その充実を図ります。 									

施策	2-2-4	食育・学校給食の推進
----	-------	------------

D i a n 【計画】	No.2	小中学校における食育推進						所管	学校教育課 教育指導課	
	目的	学校における食育を推進することで、正しい食に関する知識の習得と、望ましい食生活、食習慣を身につけます。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		地場食材を市内生産者から直接納入して給食に使用する	学校数	6校	8校	9校	10校	10校	10校	10校
		思春期栄養改善事業 (骨密度測定・食に関する授業)	年間 実施回数	1回	1回	1回	1回	1回	1回	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の取組内容									
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校給食では年間180回の完全給食を実施。ランチルームなどでは給食を教材とした食育が実践されています。 ・地場食材を給食食材として取り入れる「学校給食地場野菜使用推進事業」は、全小学校で毎月1回、市内の生産者から直接購入した野菜を給食で使用しました。 ・中学校ではミルク給食を実施。思春期におけるカルシウムの必要性を伝える栄養指導授業を年1回、中学2年生を対象に、市内4中学校でそれぞれ実施しました。 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
後期基本計画期間全体の自己点検評価										
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず		・計画どおり事業を実施することができました。						
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い		・計画どおり事業を実施することができました。地場産食材の給食での使用や、骨密度測定等は、給食の食育効果をさらに高めています。						
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要		・学校給食を教材とした食育が計画どおり実施されました。						
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> ・食育教材として活用するためにも、学校給食を円滑に実施することが必要です。今後も安全安心で栄養バランスの取れた給食を実施する必要があります。 ・食育効果を高めるために、地場産野菜の地産地消の取組や、中学生を対象とした栄養改善授業を今後も継続して取り組む必要があります。 									
今後の方向性										
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校給食の円滑な給食運営を行い、学校給食を生きた教材として活用した食育を進めていきます。 ・地場産野菜を給食食材として取り入れる「学校給食地場野菜使用推進事業」については、安心安全な食材を供給できるよう、生産者との調整を継続して行います。 ・思春期にある中学生に望ましい食習慣を身に付けてもらうため、思春期栄養改善指導などの食育推進を継続して行います。 										

施策	2-3-1	児童生徒に対する支援・相談体制の充実
----	-------	--------------------

D i a n 【計画】	No.1	教育相談の充実						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	児童生徒の抱える様々な問題の対応にあたっては、学校における相談体制や教育センター教育相談事業の充実を図ることにより、児童生徒一人ひとりの成長・発達を支援します。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		教育相談員の配置	相談員数 1日あたり	3.8人	3.0人	3.8人	4.2人	4.8人	5.6人	4.8人
		スクールカウンセラーの 配置	配置状況	全校配置	全校配置	全校配置	全校配置	全校配置	全校配置	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の取組内容							
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センター教育相談員による来所・電話・訪問などの相談やスクールカウンセラーによる相談を実施しました。 ・児童生徒のよりよい学校生活のため、学校との連携・協働に努め、小中学校でのスクールカウンセリングを行いました。 ・電話・来所・訪問などの相談: 2, 734回 ・小学校スクールカウンセラーによる相談: 1, 604回 ・中学校スクールカウンセラーによる相談: 1, 114回 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	B	B	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	B	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・教育相談員による来所・電話・訪問による相談やスクールカウンセラーによる相談を計画どおり実施しました。スクールカウンセラーによる相談活動では、学校との緊密な連携を図ることができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・可能な枠を最大限に活用し、相談等にあたりました。精神科医などの専門家を講師とした事例検討を取り入れた教職員研修会の開催は、教職員の資質及び対応能力の向上につながっています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・来所等教育相談とスクールカウンセラーとの連動など、効率的に行っています。今後はニーズに対して十分に対応ができるよう、相談員増員や相談室の環境に関する改善が引き続き必要です。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、保護者、学校の多様化するニーズに応えるためには、教育相談体制の強化や、学校不適應状況の未然防止に繋がる啓発的な活動が必要になってきています。 ・相談件数の増加に伴う相談室不足や相談環境の改善が必要となっています。 ・多様な相談に対応するため、引き続き教育相談員の資質及び対応能力の向上が必要です。 	
	今後の方向性	

<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、早期発見・早期対応を図るために、教育相談員による就学後支援を実施します。 ・児童生徒の抱える様々な問題に対応するため、教育相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと学校との連携・協働した対応を推進します。 ・学校からの要請等に、迅速に対応できる教育相談体制づくりに努めます。 	
---	--

施策	2-3-1	児童生徒に対する支援・相談体制の充実
----	-------	--------------------

D i a n 【計画】	No.2	通級指導教室での児童指導						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	集団行動やコミュニケーション、言葉の理解や表現が苦手な児童が学校生活に適應することができるよう、通級指導教室「まなびの教室」「ことばの教室」を設置して、児童・保護者並びに児童が在籍する学校を支援します。								
	事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)	
		「まなびの教室」への受入可能児童数拡大	受入可能児童数	15人	16人	24人	28人	29人	33人	29人
D o 【実行】	平成28年度の実績									
	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動やコミュニケーション、ことばの理解や表現に課題のある児童を対象に「まなびの教室」を設置し、集団生活への適應を支援しました。担当教員2人で29人の指導にあたりました。 ・言語の理解や表現が苦手な児童を対象に「ことばの教室」を設置し、言葉の理解や表現の向上を支援しました。「ことばの教室」は、担当教員2人で27人の指導にあたりました。 ・必要な教材・教具を効果的に購入するとともに、使用機器の点検整備を実施し、担当教員の指導が行いやすいように環境整備を図りました。 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
後期基本計画期間全体の自己点検評価										
進捗状況	A	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず		・集団行動やコミュニケーション、ことばの理解や表現に課題のある児童に対して可能な限り受け入れ、通級による指導を行うことができるよう運営の充実を図りました。						
有効性	A	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い		・通級指導により、児童の主訴に改善が見られ、学校生活がスムーズに送れるようになっています。						
効率性	A	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要		・通級指導教室では、支援を必要としている児童に適切な指導が実施されるように目標設定を明確にすると共に、児童の状況や接し方について、保護者や学校への助言も行われています。						
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室推進委員会において、運営・指導及び入退級について総合的に協議を進めてきました。 ・ニーズのある児童が増加している中、受入人数に限りがあることが課題です。 									
今後の方向性										
<ul style="list-style-type: none"> ・まなびの教室を1箇所増設し、受入体制の充実を図ります。 ・児童の実態を把握することで的確な目標設定を行い、入退級を適切に見極め、ニーズのある児童が指導を受けられるよう、現在あるシステムの改善を図っていきます。 										

施策	2-3-1	児童生徒に対する支援・相談体制の充実
----	-------	--------------------

D i a n 【計画】	No.3	特別支援学級への介助員の配置						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	小中学校特別支援学級において、教育活動を円滑に行うとともに、一人ひとりの児童生徒に対する指導の充実を図るために、児童生徒の学習活動や日常生活の動作を援助する介助員を特別支援学級に配置し、児童生徒へのきめ細やかな支援を行います。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		介助員の配置	1日あたりの 配置人数	小学校14人	小学校14人	小学校15人	小学校15人	小学校15人	小学校20人	小学校15人
	中学校4人			中学校4人	中学校6人	中学校6人	中学校6人	中学校6人	中学校6人	中学校6人

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校10校に、1日あたり15人、中学校4校に1日あたり6人の介助員を配置しました。 介助員の資質向上を図るため、研修会を3回実施しました。 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	B	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・特別支援学級介助員の配置要項に基づき、計画どおりに配置しました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・介助員の配置により、児童生徒一人ひとりを複数の視点から観察し、適切な支援を行うことができています。
	効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・支援を必要とする児童生徒の状況や校外学習等の様々な学習形態に対応するために、配置人数を増やしていく必要があります。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級在籍児童生徒数だけでなく、障害の状況やニーズに応じた支援を行うことができるよう適正に介助員を配置していく必要があります。 介助員の処遇改善を図り、安定した雇用に努める必要があります。 	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> 介助員の適切な配置に努めます。 質の高い介助員の安定確保に向け、処遇改善を図ります。 引き続き、介助員研修の充実を図ります。 	

施策	2-3-1	児童生徒に対する支援・相談体制の充実
----	-------	--------------------

D i a n 【計画】	No.4	専門家による教職員への助言と相談の実施						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	小中学校の特別な支援を必要とする児童生徒への対応について、相談支援チーム委員が実践的な支援の在り方を学校と共に検討します。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		相談支援チームの派遣	年間 派遣回数	随時実施	20回	22回	20回	18回	随時実施	随時実施

D o 【実行】	平成28年度の実績								
	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの要請を受け、特別支援教育や療育の専門家による相談支援チーム委員を18回派遣しました。 								

C h e c k 【評価】		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	B	—

後期基本計画期間全体の自己点検評価		
進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> 学校のニーズに応じた支援を行うことができました。
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> 各学校では、専門的な視点からの具体的な指導助言を受け、児童生徒に適切な支援を行うことができています。
効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 個別に支援を必要とする児童生徒への支援の充実につながっています。切れ目ない支援体制の一助として小中学校の接続においても、活用促進を図る必要があります。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援チーム委員の専門性を活かした指導助言を受け、引き続き、教職員の資質向上を図ることが必要です。 	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校のニーズに対応した分野の委員を派遣するなどして、校内の支援体制の充実を図ります。 	

施策	2-3-1	児童生徒に対する支援・相談体制の充実
----	-------	--------------------

D i a n 【計画】	No.5	適応指導教室の運営						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	学校に登校することが困難な児童生徒に対し、自立心の育成、集団生活への適応、学習意欲の喚起等の援助を行いながら、在籍校に通学できるようにすることや、将来の自立に向けた生きる力を身に付けることを目的としています。また、児童生徒の学校復帰を支援することで、不登校児童生徒数の減少を図ります。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		不登校児童生徒数の減少	児童生徒数	115人	93人	84人	101人	未確定	—	80人
D o 【実行】	平成28年度の実績									
	<ul style="list-style-type: none"> 不登校状態にある児童生徒12人(体験通室生を含む)が適応指導教室に通室し、適応指導教室の職員や児童生徒同士の交流など、様々な活動を通して一人ひとりが自立に向けて成長することができました。 適応指導教室職員と教育相談員とが定期的に情報交換を行い、児童生徒の状況を把握しながら、支援を行いました。 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	B	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	B	B	B	A	—				
	後期基本計画全体を踏まえた自己点検評価									
進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず			通室する児童生徒の状況について、保護者や各学校との連絡を取り合い、それぞれの立場から児童生徒を支援することができました。						
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い			小集団での活動を通して自信をつけ、自分のペースで体験を積んだり、学校行事へ参加したりしました。適応指導教室が不登校児童生徒のより良い成長を促す場の一つとなっています。						
効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要			保護者や学校のニーズがあっても、本人や保護者への教育相談を継続し通室が適か否かを判断するため、通室に至らなかったり時間を要したりする場合があります。児童生徒への適切な支援に努めています。						
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	適応指導教室への通室者が増加した場合の対応を検討する必要があります。									
今後の方向性										
学校の教職員と適応指導教室職員及び教育センター教育相談員によるきめ細やかな連携を継続することにより、児童生徒の成長を促します。										

施策	2-3-2	家庭への就学援助等の支援
----	-------	--------------

P l a n n g 【計 画 】	No.1	支援を要する家庭への就学援助						所管	学校教育課
	目的	経済的な理由で就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、学用品費や給食費等の必要な援助を行い、児童生徒が等しく教育を受け、円滑な学校生活を送ることができるよう努めます。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
	要保護・準要保護児童生徒就学援助費の支給	実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施

D o 【実 行 】	平成28年度の取組内容							
	支援を要する児童生徒の保護者に対して、学用品費などの経費の一部を負担しました。 【支給対象者】 小学校:437人 中学校:311人(神奈川県立中等教育学校分も含む) 【決算額】 小学校:29,767,775円 中学校:19,873,912円							

C h e c k 【評 価 】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	B	—
	後期基本計画期間全体の自己点検評価					
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・経済的な理由で就学が困難な家庭に対するの援助を計画どおり実施しました。			
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・就学援助制度に関する問合せ件数は、年々増加傾向にあり、就学援助制度が保護者の間に定着し、その必要性は高まってきています。				
効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・入学時に必要となる費用を援助する「新入学学用品費等」の支給時期を前倒しできるように、平成29年度から予算計上し実施します。				

A c t i o n n g 【改 善 】	事業推進上の課題	
	・社会経済的な変化により、支援を要する家庭は増加すると考えられます。その個々の状況に応じ、きめ細やかな対応をしていくことが必要となります。 ・援助が必要な家庭に対して早期に就学援助費の支給を実施できるよう他市の状況等を参考にしながら、研究をしていく必要があります。	
	今後の方向性	
・生活保護基準の見直しに伴う対応について、他市との情報交換に密にし、現在就学援助を受けている家庭が引き続き支援を受けられるような対策を検討していきます。 ・他市と情報交換し、就学援助事務をより効率よく行う方法を研究します。 ・平成29年度から、翌年度に小学校及び中学校に入学する児童生徒の新入学学用品費等の入学前支給を実施します。		

施策	2-3-2	家庭への就学援助等の支援
----	-------	--------------

P l a n 【計画】	No.2	特別支援学級就学支援						所管	学校教育課
	目的	障害のある児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、その負担能力に応じて、就学に必要な経費の一部を負担することにより、特別支援教育の普及奨励を図ります。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標(29年度迄に)
	特別支援学級児童生徒就学奨励費の支給	実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の取組内容	
	<p>特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者に対して、学用品費や校外活動費、交流学习交通費などの経費の一部を負担しました。</p> <p>【支給対象者数】 小学校:84名 中学校:31名</p> <p>【決算額】 小学校:2,544,852円 中学校:787,275円</p>	

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者に対し、就学に必要な費用の一部負担を実施しました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<input checked="" type="radio"/> 障害のある児童生徒の保護者の負担を軽減するために経済的な支援は重要であり、また、特別支援教育の普及推進にもつながっています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<input checked="" type="radio"/> 教育センターと連携し、特別支援学級の担任への説明の場を設け、この制度に対する理解を高めることにより、保護者がより申請しやすい環境をつくる配慮をしました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者とながりの深い各小中学校の担任や教育センターとの情報共有を密にし、経済的な支援を必要としている保護者がもれることなく、引き続き申請できる環境づくりを推進します。</p>	
	<p>今後の方向性</p> <p>・教育センター主催の会議にて、特別支援学級の担任へ制度に関する説明の場を設けます。</p> <p>・引き続き、他市の状況を参考にしつつ、保護者への周知方法や申請方法をより分かりやすくできるような研究をしていきます。</p> <p>・上記のような工夫をすることにより、特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者が、よりこの制度を利用しやすい環境を整備し、保護者の経済的な負担の軽減や特別支援教育の普及奨励に努めます。</p>	

施策	2-4-1	授業力の育成を核とした教職員の資質能力の向上
----	-------	------------------------

P l a n 【 計 画 】	No.1	校内研究会の充実						所管	教育指導課
	目的	校内研究は、学校教育の活性化を図り、学校教育目標を実現する方策として重要な機能を果たしています。各学校において教職員の資質能力を向上させるために、学校における教育研究の成果を生かした教職員の相互啓発の場として、一人ひとりの教職員の持ち味を生かしながら校内研究を推進します。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
	学校を指定した研究の実施	年間実施校数	5校	5校	4校	5校	5校	5校	継続実施

D o 【 実 行 】	平成28年度の実績							
	<p>・校内研究の推進を図るため研究校を指定し、研究校は3年間の研究実践と成果の報告を行っています。</p> <p>平成28年度の研究指定校</p> <p>3年次 緑台小「自ら学び、考え、豊かに関わり合える力を育てる」～交流を生かした国語の授業～</p> <p>2年次 伊勢原小「自他の思いを大切にし、よりよく生きようとする児童の育成」～自分と向き合う道徳の授業を中心に～</p> <p>大田小「主体的に学習に取り組む児童の育成をめざして」～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫～</p> <p>1年次 石田小「自分なりの考えをもち、共に認め合い高め合う子の育ちをめざして」～物語文の読みの力を伸ばす話し合い活動の研究～</p> <p>伊勢原中「教師の『授業力向上』を目指して」～生徒一人ひとりに思考力・判断力・表現力が身につく、生徒を主体的に活動させる授業～</p>							

C h e c k 【 評 価 】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【 評 価 】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・市内小中学校に対して計画的に研究指定を行いました。指定研究3年目の研究報告をH25年大山小、竹園小、H26年比々多小、H27年成瀬小、中沢中、H28年緑台小にて実施しました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・各校では、研究テーマを設定し、授業研究を中心に、より実践的な研究を進めました。また、研究報告会では、市内小中学校の教職員が参加し、研究の成果を市内全体で共有しました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・3年間の研究校を指定し、指定を受けた学校では、計画的に研究実践が行われています。

A c t i o n 【 改 善 】	事業推進上の課題	
	・対象校は3年間の研究指定校となり、単年度ごとに年次に応じた実践研究を行っていますが、年次に応じた適切な研究内容となっているか、また、成果と課題が明確となっているか等について、研究協議に参加するなどして確認していく必要があります。	
今後の方向性		
・今後も各学校において創意ある実践研究が推進されるよう計画的に研究指定を行います。また、自主研究校に対しても、学校の要請に応じて指導主事を派遣するなど、各校の研究が活発なものとなるよう支援していきます。		

施策	2-4-1	授業力の育成を核とした教職員の資質能力の向上
----	-------	------------------------

D i a n n 【計画】	No.2	教職員研修の充実						所管	教育指導課	
	目的	教職員の資質能力の向上を目指し、授業研究を中心として研修内容の充実を図るとともに、学校と教育委員会の協働による研修体制の構築を図ることを目的としています。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
		経験年数に応じた研修会 (新規採用、2年次、3年次、4年次、5年次、10年次)	実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施
		夏季自己啓発研修会 {20年次}	開催日数	2日	2日	2日	2日	2日	2日	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の取組内容							
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が授業や学級経営等について幅広い知識を学ぶ機会として、新採用から5年次まで、そして10年次の教員を対象に年次研修を実施しました。児童生徒の確かな学力の向上を図り、「生きる力」をはぐくむため、教職員一人一人の人格的資質の向上及び指導力の向上を目指しました。 ・20年次教員の企画運営による研修「夏季自己啓発研修会」を実施しました。 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・年次研修、自己啓発研修ともに計画どおり研修会を実施することができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・研修を受けた対象教員のアンケートによると、「自己の授業力向上に取り組む意欲が高まった。」などの意見が見られました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・キャリアステージに応じた研修内容を実施することができています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂に伴い、研修内容の見直しを図る必要があります。 ・受講者が主体的な研修となるよう研修方法等を工夫・改善する必要があります。 ・学習指導訪問等により、実践意欲を高め授業改善に取り組むことができていますが、経験の浅い教員が増える中、個々の課題にきめ細かく対応していくことが難しくなっていくことが考えられます。 	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き集合研修や学習指導訪問を通じ、「確かな学力をはぐくむ授業づくり」を目指します。授業力向上の内容だけでなく、メンタルヘルスや事故不祥事防止に配慮した時間も設け、教員が自己を振り返る機会とします。また、学習指導訪問では、授業づくりについて具体的な場面を通して指導助言を行います。教員の悩みなどについてもふれ、教職員皆で取り組むことの大切さを伝えていきます。 	

施策	2-4-1	授業力の育成を核とした教職員の資質能力の向上
----	-------	------------------------

D i a n 【計画】	No.3	教職員による教育研究の充実						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	指定課題別調査研究は、今日的教育課題や将来を見据えた課題、地域の特性を活かした素材について、研究を進めます。また、自主課題別調査研究は、幅広い研究テーマによる自発的な研究を進めます。研究活動を行うことにより、その成果を教育活動に活かします。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		指定課題別調査研究の実施	年間開催数 参加者数	6部会 58人	6部会 58人	7部会 61人	7部会 61人	6部会 61人	6部会 63人	継続実施
		自主課題別調査研究の実施	年間開催数 参加者数	10部会 82人	7部会 56人	3部会 22人	6部会 39人	6部会 44人	6部会 40人	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実績									
	<ul style="list-style-type: none"> 指定課題別調査研究は、各部のテーマに基づき、熱心な研究が行われました。市の関係課職員を協力者として迎えた部会もあり、教材作成の改編準備が進められました。 自主課題別調査研究では、幅広い分野において、主体的に調査研究が進められました。 平成28年8月に開催した「伊勢原市教育センター研究発表会」では、平成27年度の研究の中から2つの研究発表が行われ、市内外の教職員に研究成果を還元することができました。また、学習指導要領との関連を明確にした「活用の手引き」の作成や成果物をイントラネットにアップしました。 									

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	B	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	指定課題別調査研究では、複数年にわたる研究成果を教育活動に活かせるように努めました。自主課題別調査研究では、教職員の主体性を活かした研究が進められました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	教育課程に関する調査研究部会では、分析した結果を市と県の研究発表大会で発表しました。自主課題別調査研究は、教職員の資質・能力の向上につながっています。
	効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究員の意欲に支えられた調査研究が行われました。 研究成果は研究紀要にまとめ各校に配付し、活用促進を図りました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	研究成果を学校で有効に活用することにより、指導の充実や校務の効率化が図られるよう、研究成果の発信や周知の方法について検討が必要です。	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	今日的な教育課題や将来を見据えた課題、地域の特性を活かした素材について調査研究をすすめ、その成果を教育活動に活かすことができるよう努めます。	

施策	2-4-1	授業力の育成を核とした教職員の資質能力の向上
----	-------	------------------------

D i a n 【計画】	No.4	教職員等の人権研修の充実						所管	教育指導課	
	目的	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律等に基づき、教職員の人権教育に対する意識の向上と、人間尊重の精神を基盤とした実践力を培う教育を推進します。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
		人権啓発研修会の開催	年間開催数	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度人権教育研修会 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 期日:平成28年8月5日 会場:青少年センター 内容:外国につながるのある児童生徒の人権について 参加者:教職員27人 第2回 期日:平成28年10月5日 会場:成瀬中学校 内容:人権教育研究指定校研修講座兼平成27年度全国人権教育研究会派遣実習報告会 参加者:教職員96名 人権移動教室 平成28年10月5日 会場:高部屋小学校 6年生児童84人対象 							

C h e c k 【評価】		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

後期基本計画期間全体の自己点検評価		
進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・市内小中学校の教員に対して、計画通り研修会を実施することができました。
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・学校教育における指導の充実及び教育水準の向上を図るために研修会を実施し、様々な人権課題への対応や人権尊重の意識を高める手段等を身につけることができました。
効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・さまざまな人権課題の中から今日的な課題を毎年1つずつ絞って研修を行うという設定の中で、今年度は、外国につながるのある児童生徒の人権について研修会を行うことができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・研修内容を参加者以外にも広げ、より多くの教職員に研修の成果が反映されるようにするために、配付資料の工夫や、校内研修の充実等、様々な方策を考えていくことが求められています。	
今後の方向性		
・人権に関する研修については、各種研修会を通じ、年間を通して情報提供や研修を行い、教職員が自らの人権感覚を磨き、人権教育に対する認識を高めることができるようにします。特に、29年度については、いじめ防止や障害のある児童生徒への対応等、児童生徒に関する喫緊の課題に応じた内容で研修を行います。		

施策	2-4-2	教職員を取り巻く環境の整備
----	-------	---------------

D i a n 【計画】	No.1	教職員ICT環境の整備						所管	教育指導課	
	目的	校務支援システムの運用を充実させることで、児童生徒へのきめ細やかな指導ができるよう、情報機器の拡充を図ることを目的としています。教職員用コンピュータを一人1台継続して設置するとともに、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保するよう努めます。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
		教職員用パソコン設置 (小学校)	台数	329台	329台	329台	329台	329台	329台	随時更新
		教職員用パソコン設置 (中学校)	台数	183台	183台	183台	183台	183台	183台	随時更新

D o 【実行】	平成28年度の実績								
	<p>・平成21年度買取り機器152台の新規入替えを行いました。(小学校83台 中学校69台)</p> <p>新採用職員や他地区から異動してきた職員を対象に、校務支援システムの初歩的な操作の確認と活用方法の研修会を行いました。</p>								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画どおり教職員用のコンピュータを継続して配置しています。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・1人1台の校務用コンピュータで校務支援システムから通知表や指導要録の作成を行うことができ、作業時間の効率化が図れ、余剰時間を児童生徒にかかる時間にすることができました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・校務支援システムの運用により、通知票や指導要録を作成する際、他の校務文書の二次利用が可能となり、作成事務を軽減することができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・教育効果の高いタブレットパソコンの導入が望まれます。また、校務支援システムにおいては、活用のスキルを磨くことで、さらなる作業時間の効率化を図る必要があります。</p>	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・小中学校の県費負担教職員に対して、1人1台のコンピュータを継続して配置するとともに、校務支援システムが安全に、円滑に運用できるよう、研修会を充実させていきます。</p>	

施策	2-4-2	教職員を取り巻く環境の整備
----	-------	---------------

D i a n 【計画】	No.2	教職員の健康診断及びメンタルヘルス相談の充実						所管	学校教育課	
	目的	授業や生活指導において児童生徒等と積極的に触れ合うために、教職員の心身の健康を保持します。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
		健康診断の実施	年間実施回数	1回	1回	1回	1回	1回	1回	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実施内容							
	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校教職員の健康診断を実施し、疾病の予防や早期発見に努めました。 ・メンタルヘルス相談日を月1回設け、心の健康維持に関する相談の機会を確保しました。 ・改正労働安全衛生法施行に伴い、伊勢原市教育委員会教職員におけるストレスチェック実施要領を制定し、ストレスチェックの実施について必要な事項を定め実施しました。 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員健康診断を計画どおり実施できました。 ・教職員ストレスチェックを実施しました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の健康診断は、疾病予防や早期発見、ストレスチェック制度は、メンタルヘルス不調となることを未然に防止するため有効な機会となっています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス情報の提供や相談案内を定期的実施するとともに、ストレスチェック制度の周知により、働きかけを強くしています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の身体の健康については、定期健康診断の実施により、疾病予防や早期発見につながっていますが、心の健康については、利用しやすい相談体制の工夫など、今後も実施方法を研究していく必要があります。 	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断を継続して実施することで、教職員の健康保持・増進に努めていきます。 ・メンタルヘルス対策として、ストレスチェックにより、教職員自身のストレスへの気付きを促すと同時に、職場改善につなげ、働きやすい職場づくりを進めることによって、教職員がメンタル不調となることを未然に防止できるような体制づくりを推進していきます。 	

施策	3-1-1	開かれた学校教育の推進
----	-------	-------------

D i a n 【計画】	No.1	学校と地域との協働						所管	教育指導課	
	目的	社会全体で児童生徒の健やかな成長を支えていくため、開かれた学校を目指し、家庭や地域社会と一体となった学校づくりを目的とします。 多様な体験活動や交流事業を通じて自然や人との関わり方、豊かな人間性や社会性、協調性等を育てていきます。								
		事業	指標	当初値	25年度 達成状況	26年度 達成状況	27年度 達成状況	28年度 達成状況	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		学校地域連絡会の開催	年間 開催数	各校 2回程度	各校 3回程度	各校 3回程度	各校 3回程度	各校 3回程度	各校 3回程度	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の取組内容									
	<ul style="list-style-type: none"> 学校では、教職員、保護者、地域代表者からなる「学校地域連絡会」を開催し、学校と地域の関わり方や連携の仕方についての情報交換、通学路の安全確保、災害・防犯対策、児童生徒の見守りなど、様々な課題について協議を重ね、共通理解を図りました。さらに、保護者や地域の方が気軽に来校し、学校の様子や授業を参観する「学校へ行こう週間」を10月下旬頃から約2週間実施しました。 教育委員会では、各校の学校地域連絡会の代表者からなる「伊勢原市学校・地域連絡調整会議」を1回開催し、各校の取組について情報交換を行いました。 									

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> 各校学校地域連絡会は、各校の年間計画にも位置づけられており、計画どおり実施されています。学校・家庭・地域をつなぐ重要な機会となっています。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> 学校地域連絡会を開催することで、学校についての理解が進み、家庭・地域の協力のもと児童生徒の教育環境の整備や充実、安全確保等が図られています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会が実施している「伊勢原市学校・地域連絡調整会議」は各学校地域連絡会と情報共有をする重要な場となっています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の安全で健全な成長を促すために家庭や地域との連携を深めていく必要があり、学校地域連絡会は、大きな役割を担っており、今後も取組を強化していく必要があります。 伊勢原市学校・地域連絡調整会議において、学校と地域とのよりよい協働の在り方について検討を図る必要があります。 	
	今後の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の安全で健全な成長のため、各校の学校地域連絡会の取組を推進するなど、学校・家庭・地域が協力し合う体制づくりを進めます。 伊勢原市学校・地域連絡調整会議を通して、学校と地域のよりよい協働の在り方について研究します。 		

施策	3-1-1	開かれた学校教育の推進
----	-------	-------------

P l a n 【計画】	No.2	学校からの情報発信						所管	教育指導課 (教育センター)	
	目的	学校から情報を積極的に発信することで、保護者、地域住民との連携や協力の推進を図ることができます。情報を発信するための手立てとして学校Webサイトがあります。情報アドバイザーを学校へ派遣することにより、学校Webサイトの更新、維持、管理の支援を行います。								
		事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		情報アドバイザーの派遣	年間派遣 日数	90日	90日	90日	90日	90日	90日	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の取組内容									
	・学校Webサイトの運用に関するアドバイザー業務を委託し、各学校の情報発信を支援しました。									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	B	B	B	B	—				
	後期基本計画全体の自己点検評価									
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず			・学校からの依頼を受け、情報アドバイザーによる支援を行いました。					
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い			・各学校において、校務支援ソフトの活用を円滑に行ったり、情報発信を行ったりする上で欠かせない事業となっています。					
	効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要			・学校からの依頼に対し校務が滞らないように、できる限り早く対応するよう努めています。しかし、委託業務開始が5月になることや情報アドバイザーを必要とする時期が重なり、即時対応が困難なこともあります。					
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	・校職員の校務の効率化を図る上で、必要な支援を引き続き行うことが大切です。									
	今後の方向性									
	・学校への支援が4月からスタートできるよう、契約の時期を見直します。									

施策	3-1-5	保護者や地域と連携した通学路の安全対策
----	-------	---------------------

D i a n 【計画】	No.1	小中学校通学路の安全対策						所管	学校教育課	
	目的	児童生徒が安心して学校生活を送るため、地域が一体となって児童生徒の登下校中の見守りや、通学路の安全点検を行います。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標(29年度迄に)
		通学路点検及び危険箇所 の改善	実施校数	継続実施	14校実施	14校実施	14校実施	14校実施	14校実施	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の実行内容									
	<ul style="list-style-type: none"> 教育振興基本計画に位置づけた重点取組として、地域、PTA等の協力のもと、学校ごとに通学路を点検し、その改善要望に基づき、通学路等整備促進検討会や関係機関と連携して通学路の改善整備等を実施しました。 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず			・小学校10校、中学校4校で、PTAや教職員等が児童生徒の立場に立って通学路を確認し、改善箇所の確認や点検を行いました。						
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い			・地域(自治会)やPTA、教職員、市、警察が通学路現場において、改善箇所や問題点を共有できました。						
効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要			・通学路の現場にて、PTA等や学校との意見交換や市担当者や警察から改善点のアドバイス等ができるため、効率的な事業となっています。						
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<ul style="list-style-type: none"> 信号や横断歩道の設置等、交通規制に関する要望については、県公安委員会の判断に基づくものであるため、改善されない場合や時間を要することがあります。 改善点が道路の拡幅や歩道の設置等、大規模な整備を要する場合は、土地の確保などを含め実施が困難な状況です。 PTAを含め、自治会、警察等様々な関わりの中で点検をしたものであるため、地域の課題としても対処していく必要があります。 									
	今後の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地域、PTA等の協力のもと、学校ごとに通学路を点検し、その改善要望に基づき通学路等整備促進検討会や関係機関と連携して通学路の改善整備等を実施していきます。 										

施策	3-2-1	家庭の教育力向上に向けた支援
----	-------	----------------

P l a n 【 計 画 】	No.1	訪問型家庭支援事業 (旧:地域の多様な人材を活用した家庭教育支援事業)					所管	教育指導課 (教育センター)		
	目的	児童生徒が安心して学校教育が受けられるよう、教育分野に加え社会福祉に関する専門性をもったスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置し、児童生徒と児童生徒を取り巻く環境への支援を行います。								
	事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)	
	家庭や子どもを支援するための中心となる連絡会等の設置	設置学区数	0学校区	1中学校区	1中学校区	全市域 (4中学校区)	全市域 (4中学校区)	全市域 (4中学校区)	2中学校区	

D o 【 実 行 】	平成28年度の取組内容								
	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度より、社会教育課からの移管に伴い、「地域人材家庭教育支援事業」において有効であったスクールソーシャルワーカー(SSW)による支援を「訪問型家庭支援事業」と名称を変更して実施しました。 学校からの要請を受け、児童生徒と児童生徒を取り巻く環境の状況把握を行い、スクールソーシャルワーカー(SSW)による家庭訪問や他機関との連携による支援などを行いました。 <p>勤務日数:週2日から週4に増 SSWによる訪問回数:223回</p>								

C h e c k 【 評 価 】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	B	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【 評 価 】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> 市費でSSWを配置し、各ケースについて情報把握に努めると共に、学校や他機関との連絡調整を行い、それぞれの役割を明確にした上で、必要な支援を行いました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> 学校だけでは解決が難しい不登校、問題行動等の事案について、福祉的視点からのアプローチが可能となり、本人や学校支援に大きく寄与しています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの依頼を受けた各ケースに対して、必要な支援を行うことができています。

A c t i o n 【 改 善 】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> スクールソーシャルワーカー(SSW)の役割を各校に周知することができてきています。 主訴改善までに時間を要する状況からの関わりが多く、早期発見・早期対応に向けた取組が必要です。 	
今後の方向性		
<ul style="list-style-type: none"> 学校の要望に基づき、計画的に巡回訪問を行い、情報共有を図るなどして、問題の早期発見・早期対応に努めます。また、件数が増加傾向にあることから、スクールソーシャルワーカー(SSW)の増員に努めます。 引き続き、教育相談事業や他課と連携し、切れ目ない支援体制の構築を図ります。 		

施策	3-2-1	家庭の教育力向上に向けた支援
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.2	教育講演会の開催						所管	教育総務課	
	目的	PTAや市の子育て部門等と連携し、今日的な教育課題や家庭教育等について考える講演会を開催することにより、家庭の教育力向上を図ります。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)
		教育講演会の開催	参加者数	700人	833人	655人	718人	701人	720人	800人

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>・日時:平成28年7月26日(火) 午後2時から4時 ・会場:伊勢原市民文化会館大ホール</p> <p>・テーマ:日本遺産を語る!～伊勢原の歴史・伝統文化を生かした教育とまちづくり～</p> <p>・内容:第1部基調講演～江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～ 第2部パネルディスカッション</p> <p>・講師:鈴木 良明氏(鎌倉国宝館館長)</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画どおり講演会を開催することができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・小学校における英語教育の教科化、日本遺産認定等、直近の教育課題やタイムリーな話題をテーマにした講演会が開催でき、本市の教育を考える有意義な機会となりました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・教職員及び保護者が一堂に会した講演会を開催することができ、効率的な事業運営を図ることができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・テーマについて、教職員の視点と、保護者の視点の両方の立場に立った内容に配慮する必要があります。	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・直近の教育課題を適確に把握し、今後の本市の教育を考える上でより良い講演会になるよう引き続きテーマ設定や内容の切り口を工夫します。	

施策	3-2-1	家庭の教育力向上に向けた支援
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.3	家庭教育講演会の開催						所管	社会教育課	
	目的	PTA等との連携により講演会を実施し、子育て中の家庭と学校、地域とのかかわりや家庭教育について考える機会を持つことにより、家庭の教育力の向上を図るとともに、地域全体で子どもを育てる意識を醸成することを目的とします。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄)	
	家庭教育講演会の開催 (4中学校区合計)	年間開催数 参加者数	4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回	継続開催
			460人	502人	471人	476人	478人	480人		

D o 【実行】	平成28年度の実績内容								
	<p>・市内4中学校区において、小・中学校PTA、青少年健全育成協議会、公民館等が実行委員会を組織し、地域全体で家庭教育について考え、支援するための機会として「家庭教育講演会」を開催しました。参加者からは、「わかりやすかった」「普段の生活を見直すよい機会となった」などの意見をいただきました。</p>								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・各中学校区において、PTA会員をはじめ、多くの参加者を得て開催することができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・PTA等との連携により事業を実施することで、参加者のニーズに応じたテーマや講師を選定し、実施することができました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・PTAと公民館とが連携し、役割分担することにより、効率的に事業を運営することができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・家庭の教育力の向上を図るとともに、地域全体で子どもを育てる意識を醸成するためには、PTA等の参加団体が、それぞれ自主性・主体性を発揮できるように支援していく必要があります。</p>	
今後の方向性		
<p>・地域のニーズに合ったテーマや講師の選定を行うなど、内容の充実を図るとともに、役割分担を行い効率的な運営に努めます。</p>		

施策	4-1-1	安全・快適な学校施設への改善
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.1	小中学校校舎屋上・外壁の修繕						所管	教育総務課
	目的	建物の劣化を抑制し、児童生徒の安全を確保するため、小中学校校舎の屋上防水の更新、並びに外壁の落下防止及び塗装を行います。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 (29年度迄に)
	屋上防水又は外壁の修繕が必要な施設28棟のうち、全面的な修繕工事が完了した棟数(累計)	棟数	0棟	8棟	17棟	18棟	20棟	21棟	15棟

D o 【実行】	平成28年度の実行内容							
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校2棟の外壁修繕を実施しました。 実施箇所:伊勢原小学校3期校舎、竹園小学校校舎 工事費:93,759,120円 (財源内訳:国庫補助金30,369,000円、市債59,700,000円、一般財源3,690,120円) 国の2次補正により小学校1棟の外壁修繕が採択され、平成29年度夏季休暇中に実施予定です。 対象箇所:大山小学校校舎 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	B	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画計画全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画どおり校舎の屋上及び外壁の修繕を実施できました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・校舎の老朽化対策の推進とともに、児童生徒の安全確保を図るためには有効性は高いです。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・国庫補助を活用し、集中的に屋上と外壁の一体的な修繕が実施できました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・建物の老朽化は常に進行しているため、滞ることなく計画的に校舎の屋上及び外壁の修繕を行う必要があります。	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・国庫補助事業を活用しながら引き続き修繕を実施します。	

施策	4-1-1	安全・快適な学校施設への改善
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.2	小中学校施設の改修						所管	教育総務課
	目的	学校施設の機能・性能の向上を図る改修を行い、安全で快適な学習環境の確保と、災害時の避難施設としての充実を図ります。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
	トイレの洋式化	大便器数のうち洋式便器が占める割合	39.6%	48.6%	49.7%	49.7%	49.7%	55.16%	50.0%

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>・成瀬小学校エレベータ設置工事を実施しました。 設置経費：42,644,640円 (財源内訳：国庫補助金5,050,000円、市債9,000,000円、一般財源28,594,640円)</p> <p>・国の2次補正により中学校3棟のトイレ改修及び中学校1棟の危険防止手すり設置工事が採択され、平成29年度夏季休暇中に実施予定です。 トイレ改修：山王中学校3期校舎、成瀬中学校3期校舎、中沢中学校西校舎 手すり設置：山王中学校2期校舎</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	B	B	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・平成29年度に中学校3校の校舎トイレの改修を行うことで計画どおりに進捗しています。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・校舎トイレの改修と洋式化を進め、児童生徒が使いやすい快適な施設となり有効性は高いです。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・事業の実施に当たっては、国庫補助事業を活用し、効率的に実施するよう努めています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・校舎トイレの計画的なリニューアルを中心に、状況に応じた教育環境の改善を引き続き進める必要があります。	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・国庫補助事業を活用しながら引き続き改修を実施します。	

施策	4-1-1	安全・快適な学校施設への改善
----	-------	----------------

D i a n 【 計 画 】	No.3	小中学校教室への扇風機設置						所管	教育総務課	
	目的	児童生徒が常時使用するホームルームに扇風機を設置し、児童生徒の健康管理と授業に集中できる環境の確保を図ります。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで	
	扇風機設置	小学校への設置状況	15.8%	100%	平成25年度に目標達成	平成25年度に目標達成	平成25年度に目標達成	平成25年度に目標達成	100%	
	扇風機設置	中学校への設置状況	31.1%	100%	平成25年度に目標達成	平成25年度に目標達成	平成25年度に目標達成	平成25年度に目標達成	100%	

D o 【 実 行 】	平成28年度の実行内容									
	・平成25年度に全小中学校の普通教室への扇風機設置が完了しました。									

C h e c k 【 評 価 】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—
	後期基本計画期間全体の自己点検評価					
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず		・平成25年度に各校への扇風機設置を完了することができました。		
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い		・児童生徒の健康管理及び授業に集中できる環境が確保されています。			
効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要		・事業の効率的な実施ができました。			

A c t i o n 【 改 善 】	事業推進上の課題					
	・引き続き児童生徒の快適な学習環境の確保に努めます。					
今後の方向性						
・引き続き児童生徒の快適な学習環境の確保に努めます。						

施策	4-1-1	安全・快適な学校施設への改善
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.4	基金を活用した教育・文化の振興						所管	教育総務課
	目的	教育に関する諸課題に対し、支援・応援してくれる市民、団体等からの寄附金を活用し、教育・文化の充実を図ります。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
	基金の創設及び運用	実施状況	条例制定準備	基金創設運用開始	活用	活用	活用	活用	基金創設運用開始

D o 【実行】	平成28年度の実績内容							
	<p>・伊勢原市まちづくり市民ファンド(まちづくり応援寄附金)を活用し、中学校教材及び市立図書館児童図書等の購入をしました。</p> <p>【活用状況】</p> <p>・中学校音楽教材備品:オーボエ(伊勢原)、サクソフォン(成瀬)、バスーン(山王)、長胴太鼓(中沢) 各1台 計 1,523,000円</p> <p>・市立図書館児童図書:本1,447冊、書架10台[こみち文庫] 計 3,000,000円</p> <p>合計 4,523,000円</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	B	B	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・伊勢原市まちづくり市民ファンドの制度が浸透し、教育環境の整備に役立っています。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・財源確保が厳しい中、市民の浄財が有効に活用されています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・制度の効率的で有効な運用が図られています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・市民が寄附をすることの社会的意義や満足感を感じられる制度の周知、用途の設定を検討する必要があります。	
A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・様々な機会を通して更なる「伊勢原市まちづくり市民ファンド(まちづくり応援寄附金)」制度の周知を図ります。	

施策	4-1-1	安全・快適な学校施設への改善
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.5	学校環境衛生検査の実施						所管	学校教育課	
	目的	学校環境衛生検査を実施するとともに、必要な改善措置を講じることにより、児童生徒が意欲的に学習に取り組める衛生環境を保持します。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
		環境衛生検査の実施	年間実施回数	1回	1回	1回	1回	1回	2回	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の実施内容									
	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内の空気、化学物質、照度、飲料水質等の環境衛生検査を実施しました。 ○検査項目:ダニ、化学物質(ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン)、照度、騒音、空気(CO、CO2、NO2、気流)、飲料水 ○検査結果:いずれの項目も基準値又は定量下限値以下 									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
後期基本計画期間全体の自己点検評価										
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画どおり、全小中学校で全検査を実施することができました。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・いずれの項目も基準値又は定量下限値以下であることが確認できました。							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・学校薬剤師が検査を実施し、又は指導を行い、検査結果について各校に助言を行うことで、学校環境衛生の維持・向上に役立っています。							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	・定期検査を実施することで、学校環境衛生への意識は高まっていますが、よりよい環境づくりのために、引き続き、検査していく必要があります。									
今後の方向性										
・引き続き、環境衛生検査を実施し、環境衛生の維持のため必要な改善措置を図っていきます。また、照度、騒音、空気、飲料水検査については、学校環境衛生基準に基づき年2回実施します。										

施策	4-1-2	学校における防災体制の充実
----	-------	---------------

D i a n 【計画】	No.1	災害時における児童生徒の安全確保						所管	学校教育課 教育指導課
	目的	災害時に児童生徒が慌てず冷静に対応できるよう、日頃から防災に関する意識醸成を図り、有事に備えます。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
	防災意識の醸成	防災訓練実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の取組内容								
	<ul style="list-style-type: none"> 地震防災活動マニュアル(※1)を各小中学校に配布し、学校ごとに作成している防災計画を基に、災害時における児童生徒の安全確保に努めました。 総合的な学習の時間や各教科の中で、防災に関する内容を交えた授業を実施し、児童生徒の防災に対する意識の向上に努めました。 								
	<small>(※1)地震防災活動マニュアル 地震が発生した場合の学校現場における防災対策活動の基本となるもので、地域の特性等を考慮した各学校の地震防災活動マニュアル作成のための基本的指針をとりまとめたもの。平成13年7月に伊勢原市教育委員会が発行し、平成23年6月に改訂した。</small>								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・学校ごとの年間計画に従い、防災訓練等を実施することができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・登校時の防災訓練だけでなく、自宅にいる際の避難行動などについても授業等で触れることができました。 ・各授業において火災予防、洪水、台風と気象災害など学習して理解を深めました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・火災時、地震発生時(初期対応や避難)の訓練、帰宅訓練、保護者の協力もとの引取り訓練等、ケースに応じた訓練を各学校ごとに取り入れています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 災害時訓練の実施において、児童の成長段階に配慮したものや、様々な状況を想定した訓練(停電時に放送機器が使用できない場合や雨天時等)内容の検討や、小中学校や幼稚園の連携の強化が課題となっています。 市外から区域外就学をしている生徒の有事の際の対応が課題となっています。 	
	今後の方向性	

・教育委員会で配布した地震防災活動マニュアル(注1)を参考にした学校ごとの防災計画を基に、有事の際の児童生徒の安全確保を図ります。

・総合的な学習の時間や各教科の中で、防災に関する内容を交えた授業を実施し、児童生徒の防災に対する意識の向上を目指します。

・学校内に地震防災マップ及び風水害ハザードマップを掲示し、児童生徒に対する緊急避難場所の確認、洪水に対する注意喚起啓発に努めます。

施策	5-1-1	生涯学習への支援と多用な人材活用の促進
----	-------	---------------------

D i a n 【計画】	No.1	生涯学習や市民活動の情報提供						所管	社会教育課
	目的	生涯学習、市民活動団体の情報を、生涯学習活動状況が紹介された「サポートブック」に一元的にまとめ、市民へ情報提供することにより、生涯学習への支援や社会参加への窓口となることを目的としています。							
	事業	指標	当初値	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 達成見込	目標 29年度まで
	サポートブックによる情報提供	掲載団体数	400団体	498団体の整理	472団体	1433団体	1402団体	1200団体	650団体

D o 【実行】	平成28年度の実行内容								
	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設利用予約システム中の全公民館の登録団体データを精査しました。 								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	B	B	B	B	—
	有効性	A	A	B	B	—
	効率性	B	B	B	B	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input type="radio"/> 計画どおり <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設利用予約システム中の全公民館の登録団体データを精査し、情報の整理を行いました。他施設が提供する情報との集約には至りませんでした。
	有効性	<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> 整理できた登録団体の情報を、市民の学習相談などで活用していきます。
	効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 登録内容の把握はできましたが、情報発信には更に登録データを精査していく必要があります。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 市民がより活用しやすい仕組みづくりに向けて、個人情報の取り扱い等各団体の意向確認や登録情報の適宜更新も課題となっており、今後も取組を継続していく必要があります。 	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設利用予約システムの登録データだけでは不足している情報もあるため、各団体からの別途情報について、その収集方策等の見直しを検討しながら、より正確でタイムリーな情報をとりまとめることができるよう取り組んでいきます。 	

施策	5-1-1	生涯学習への支援と多様な人材活用の促進
----	-------	---------------------

D i a n 【計画】	No.2	生涯学習の充実と人材活用						所管	社会教育課	
	目的	学習の成果を活かすことができる生涯学習を推進するため、ボランティア団体や市民活動団体等と連携し、地域で活躍する生涯学習を主導するリーダーを養成します。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
		連絡調整協議会の設立・開催	進捗状況	活動団体の把握	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	協議会の開催
		生涯学習推進リーダーの養成	延育成数	0人	2人	6人	9人	12人	15人	25人
D o 【実行】	平成28年度の実行内容									
	・第12期いせはら市民大学・楽習講座をいせはら市民大学・楽習講座実行委員会との市民協働事業として実施し、高齢者の学習機会と場を提供するとともに、生涯学習推進リーダーの養成等に努めました。									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	B	B	B	B	—				
	有効性	A	A	B	B	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
	進捗状況	<input type="radio"/> 計画どおり <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず		<input checked="" type="radio"/> 生涯学習推進指針の取組項目として掲げる「支援体制の整備」を推進するため、「いせはら市民大学」を市民協働事業として実施し、生涯学習推進リーダーの養成を行いました。						
	有効性	<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い		<input checked="" type="radio"/> 市民活動団体と連携して事業を実施したことで、生涯学習活動を行う立場からの企画・運営ができ、内容の充実を図ることができました。また地元の方を講師に招くなど、地域人材の活用にも取り組みました。						
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要		<input checked="" type="radio"/> 講座の修了生を次年度の実行委員として登用するなど、学習成果を活かす仕組みが機能しています。また、実行委員会との役割分担により、効率的に事業を運営することができました。						
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	・市民活動団体と行政との協働事業には一定の進捗が見られます。更に充実した内容となるよう、団体との連携強化が必要です。									
A c t i o n 【改善】	今後の方向性									
	・市民大学においては、観光振興や健康づくりなど各所属と関連するプログラムを実施し、引き続き生涯学習リーダーの養成・増員につなげていきます。									

施策	5-1-1	生涯学習への支援と多様な人材活用の促進
----	-------	---------------------

D i a n 【計画】	No.3	公民館を拠点とする生涯学習の推進						所管	社会教育課
	目的	幅広い年齢層を対象に、それぞれのニーズに合った公民館講座を実施するとともに市民団体等の活動を支援することにより、多くの市民が積極的に学習活動に取り組むことを目的とします。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
	各種学級、講座の開催	開催回数 7館合計	161講座	153講座	150講座	141講座	142講座	153講座	170講座
	公民館まつりの開催	開催回数 各館/年	1回 (2日間)	1回 (1～2日間)	1回 (2～3日間)	1回 (2～3日間)	1回 (2～3日間)	1回 (2～3日間)	継続実施
公民館の利用者数	7館合計 年間	261,931人	269,159人	262,460人	262,519人	254,189人	256,000人	270,000人	
D o 【実行】	平成28年度の実績								
	<ul style="list-style-type: none"> 各公民館において、地域の課題や特色を踏まえた学級・講座を開催することで、生涯学習の機会を提供するとともに市民団体等の自主的な活動を支援し、生涯学習意欲の向上を図りました。 公民館まつりやサークル活動発表会等、学習成果を発表する機会を設けるとともに公民館講座で講師を依頼する等、各種団体の学習成果をの地域に還元することができました。 								
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧								
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
	進捗状況	A	A	A	A	—			
	有効性	A	A	A	A	—			
	効率性	A	A	A	A	—			
後期基本計画期間全体の自己点検評価									
進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	計画通りに学級や講座を実施することができました。							
有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	各公民館活動推進協議会における意見や講座等のアンケート結果を反映することにより、幅広い年齢層を対象とした多様なニーズに応じた学習の機会を提供することができました。							
効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	公民館学習ボランティアや各種地域団体との連携などにより、効率的に講座や事業を実施することができました。							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題								
	<ul style="list-style-type: none"> 各種地域団体や市民活動団体、行政の他機関等との協働・連携により、幅広い年齢層を対象とした多様な学習機会を提供することが求められるとともに、事業や活動を通して学んだ知識を社会・地域へ還元する機会の充実が課題となっています。 								
今後の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果等を踏まえて事業の改善や充実を図るとともに、地域人材の新たな発掘・活用により、地域関係団体等との連携をさらに強化し、生涯学習のさらなる推進に努めます。 									

施策	5-1-1	生涯学習への支援と多様な人材活用の促進
----	-------	---------------------

D i a n 【計画】	No.4	人権啓発講座・人権セミナーの開催						所管	社会教育課
	目的	人権を尊重する社会づくりの実現のために、広く市民に人権尊重の精神を啓発するとともに、人権に対する正しい理解と知識を深め、差別と偏見のない地域社会づくりを推進します。							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
	人権啓発講座・人権セミナーの開催	開催数(年間)	4回	4回	4回	4回	4回	4回	継続開催
		参加者数	257人	199人	188人	202人	228人	250人	

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>人権に対する正しい理解と知識を深め、差別と偏見のない地域社会づくりに向け、多様なテーマで人権セミナーを開催し、広く市民に人権尊重の精神について啓発に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 H28.5.18(水) 参加者56人「いじめ・不登校はなぜ起きるのか、支援のありかた」～悲しい現実から道しるべを立てるために～ ・第2回 H28.7.13(水) 参加者54人「インクルーシブな教育環境づくりと課題」～包み込む教育と課題解決のために～ ・第3回 H28.11.17(木) 参加者52人「DVは増え続ける、背景と防止へ向けて」 ・第4回 H29.2.16(木) 参加者66人「虐待はすぐそこに、いちはやく救いたい」 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画通りセミナーを実施することができました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・差別と偏見のない地域社会づくりに向け、広く人権尊重の精神を啓発するとともに、人権に対する正しい理解と知識を深める機会を提供することができました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・社会教育関係団体等を通じて周知を図るなど、効率的に事業を実施することができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・アンケート結果によれば、毎回高い評価をいただいている事業ではありますが、一層の普及・啓発に向け、今後も多角的な視点により継続的にセミナーを開催する必要があります。	
A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・引き続き人権セミナーを年4回程度開催し、人権に対する正しい理解と知識を深め、差別と偏見のない地域社会づくりに努めます。	

施策	5-1-2	図書館運営の充実
----	-------	----------

D i a n 【計画】	No.1	図書館利用者の利便性の向上						所管	図書館・子ども科学館	
	目的	定期的に図書館に行くことができない利用者に対する利便性の向上を目的としています。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで	
	予約図書の定期配送、回収	週あたりの配送回数	1回	1回	0回	0回	0回	2回	4回	
	公民館への返却ポストの設置	設置数	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	6箇所	
D o 【実行】	平成28年度の実績									
	<p>・図書館に来館することができない方へのサービスです。現在は、希望者がいないため実施されていませんが、本館へ図書返却希望の連絡を頂くと、最寄の公民館図書室へ本をお届けするサービスです。公民館図書室内の返却ボックスについては、公民館図書室の資料や、配送した資料の返却ができるボックスはありますが、本館の資料も回収できる返却BOXについては、回収の頻度の問題で、実施までには至っていません。</p>									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	B	B	B	B	—				
	有効性	B	B	B	B	—				
	効率性	B	B	B	B	—				
後期基本計画期間全体の自己点検評価										
進捗状況	<input type="radio"/> 計画どおり <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<p>・予約図書の定期配送は、利用の有無に関わらずサービスは継続し、図書館ホームページ上でも周知を図りました。館外の返却ポストは、窓口センター2箇所のみを継続しました。</p>								
有効性	<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<p>・窓口センターの返却ポストのサービスは、図書館まで返却に来られない市民の利便性を提供することができました。</p>								
効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<p>・予約図書の定期配送や窓口センターでの返却本の回収は、図書館の定期的な利用が困難な市民へのサービス向上につながりましたが、他課との協力や調整体制をより強化する必要があります。</p>								
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<p>・基本的に図書館へ来館できない方へのサービスです。窓口センターや公民館の運用とのすり合わせなどにより、より市民へのサービス向上を検討する必要があります。</p>									
今後の方向性										
<p>・引き続き、図書館へ定期的に来館することができない利用者のための利用方法について再検討します。</p>										

施策	5-1-2	図書館運営の充実
----	-------	----------

D i a n 【計画】	No.2	図書館資料の整備・充実						所管	図書館・子ども科学館	
	目的	子どもから大人までの市民の継続的な読書習慣を奨励し環境を整備する目的で、利用者が要望する資料を積極的に受入れ、また、利用価値の高い寄贈資料等を受入れることで、図書館資料の充実を図ります。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
		図書等の購入	年間購入数	5,589冊	7,321冊	7,321冊	7,771冊	8,786冊	7,000冊	7,000冊
		図書等の寄贈受入れ	年間受入れ数	2,253冊	1,713冊	1,397冊	1,227冊	1,253冊	1,300冊	3,000冊

D o 【実行】	平成28年度の実績								
	<p>購入図書資料:7,022冊 ※こみち文庫図書1,447冊(書架10台)を含む。</p> <p>購入雑誌:1,764冊</p> <p>寄贈資料:1,253冊</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書啓発のための「こみち文庫」の開設を行いました。(まちづくり市民ファンド3,000,000円) 限られた予算の中で、利用者のリクエスト等を考慮した資料の選定に努めました。 寄贈図書は、当館での利用を考慮しながら、汚損・破損のない資料を受入れました。 								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	B	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価			
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要
	A	<ul style="list-style-type: none"> 市民ファンド寄附金による児童図書コーナーの新書架の増設や充実を図ることができました。受入図書の整理に伴い、除籍や買い替え業務にも力も入れて、図書館資料の整備を積極的に行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者からのリクエスト図書を中心に選書を行い、限られた予算を市民要望に有効に活用しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な選書会議で、寄贈図書の受入れを行いました。予約多数の資料については、ホームページで寄贈を募集するなどして、効率の良い複本の受入や利用の促進を行いました。
	有効性	A	A	A
	効率性	A	A	A

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 限られた予算の中での図書購入や買い替えは、除籍等の整理と共に計画的に、バランスを考えながら行う必要があります、時間をかける必要があります。 	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> 一般図書、児童図書、ヤングアダルト図書の整理を積極的に行い、また、ボランティアとの協力のもと特集架等の設置を工夫し、蔵書の回転率のアップを図りたいと思います。 	

施策	5-1-2	図書館運営の充実
----	-------	----------

D i a n 【計画】	No.3	読書の普及・啓発						所管	図書館・子ども科学館	
	目的	おはなし会やボランティア育成講座等で、家庭や関係各機関との協働や情報交換を図りながら、市民のニーズに合った効果的な読書普及・啓発活動を推進していくことを目的としています。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
		子ども向けおはなし会・各種教養講座の開催	年間開催数	実施	140回	138回	125回	129回	131回	継続実施
D o 【実行】	平成28年度の実績									
	<p>・ボランティアによる定期のおはなし会や、市主催の「ぬいぐるみ図書館員」、「父子向けのわらべうた会」、「クリスマス会」、「読書マラソン大会」など子どもや親子への読書普及を図りました。また、視覚障害者向けの「体験映画会」や「対面朗読」、中高生から一般向けには大学教授による「古典文学の講座」やプロの脚本家による「シナリオワークショップ」、新規事業として「大人のための朗読会」を実施し、様々な市民の学習要求に応えました。</p> <p>・市内や図書館で活動している市民ボランティアとの協働事業も多数実施するなど、市民のアイデアやニーズを取り入れた読書普及・啓発に取り組むことができました。</p>									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・おはなし会及び講座等の読書普及・啓発事業を、年間計画に沿って行うことができました。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・様々な世代を対象とした事業を実施するなど、幅広い読書普及のアプローチが実施できています。							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・読書普及を実施するにあたり、図書館のみでなく市民ボランティアと協働することで、より効率的な活動を行うことができます。							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	・限られた職員で読書普及活動を推進するためには、多くのボランティアとの協働が重要です。現在活動しているボランティア団体の活性化を図るため、今後も継続してボランティアの新規参加を促すことが課題となっています。									
今後の方向性										
・新たな市民ニーズに対応した読書普及活動が行えるよう、今後も市民ボランティアとの協働を継続、推進し、活動団体に対する支援等を行いながら、市民への読書普及・啓発を進めていきます。										

施策	5-1-2	図書館運営の充実
----	-------	----------

D i a n 【計画】	No.4	学校図書館の環境整備への支援						所管	図書館・子ども科学館	
	目的	学校での「総合的蔵書管理システム」の導入に先駆け、図書館の職員が学校図書資料のデータ入力を事前に進めることにより、円滑なデータベース化を図ることを目的としています。								
	事業	指標	当初値	25年度 達成状況	26年度 達成状況	27年度 達成状況	28年度 達成状況	29年度 達成見込	目標 (29年度迄に)	
	学校図書のデータベース化	実施校数	小学校0校	小学校0校	小学校0校	小学校0校	小学校0校	小学校0校	小学校0校	小学校3校
			中学校1校	中学校2校	中学校2校	中学校2校	中学校2校	中学校2校	中学校2校	中学校4校

D o 【実行】	平成28年度の実行内容								
	・平成28年度は事業の実施は行いませんでした。								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	B	B	B	B	—
	有効性	B	B	B	B	—
	効率性	B	B	B	B	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input type="radio"/> 計画どおり <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・学校図書館の蔵書管理システムの導入が見送られたため、事業は停止状態でした。
	有効性	<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・平成27年度に図書館に導入された新電算システムでは、入力済みの学校図書館資料の検索ができなくなりましたが、データ自体は図書館のサーバで保存を続けています。
	効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・図書館のサーバに保存した資料データは、データを読み取り可能なシステムが学校へ導入されれば使用できます。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・学校図書館資料には、図書館資料と同様に、ラベルやバーコード、フィルムコーティングが施されていますので、学校での蔵書管理システムの導入検討が望まれます。	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・学校図書館への「総合的蔵書管理システム」の導入が前提で始まった事業であるため、学校側の導入計画に変更があったことから、教育指導課との調整の結果、現在は作業を停止しています。 ・今後、学校へのシステム導入の予定に合わせた図書館からの支援を行いたいと思います。	

施策	5-1-3	子ども科学館運営の充実
----	-------	-------------

D i a n 【計画】	No.1	プラネタリウム事業の充実						所管	図書館・子ども科学館	
	目的	プラネタリウムで天体の様子、星座などの投影や解説のほか、天体観測機器を使用して実際の天体を観察することで、子どもたちをはじめとする多くの方々に、天文に関する興味・関心を深めてもらうことを目的とします。								
		事業	指標	当初値	25年度 達成状況	26年度 達成状況	27年度 達成状況	28年度 達成状況	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)
		番組投影	投影番組数	4本	5本	5本	5本	5本	5本	5本
		天体観察会 「クーデの日」	実施回数	12回	13回 (7回)	16回 (10回)	13回 (7回)	14回 (9回)	14回 (9回)	15回
	ま昼の星を見よう	実施回数	10回	19回 (12回)	13回 (12回)	12回 (9回)	11回 (8回)	11回 (8回)	20回	

D o 【実行】	平成28年度の実行内容							
	<p>(1) 投影番組数 ・平成28年度には再投影も含め、5本の番組契約をしました。また、永年投影番組などと併せて、多くの番組を提供しました。</p> <p>(2) 天体観察会「クーデの日」 ・年14回を予定していましたが、天候により、9回行いました(参加者延べ570人)。約60%の実施率。</p> <p>(3) ま昼の星を見よう ・年11回を予定していましたが、天候により、8回行いました(参加者延べ147人)。約70%の実施率。</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・天体観察会「クーデの日」や「ま昼の星を見よう」については、天候に影響されるため、中止となる場合がありますが、計画どおりに実施できました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・投影番組は、話題性のある番組を採用したこと、また、星座の解説を工夫するなどして天文への興味関心を持っていただくことができました。 ・クーデ式望遠鏡などの天体観測機器を使用して、目視ではわかりづらい星の姿などを実際に観察できました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・プラネタリウムでの学習や望遠鏡を使った天体観察等の事業の実施にあたり、ボランティア団体である大山天文同好会や支援会員、元職員の協力を得てより効率的に実施しました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・天文に関するタイムリーな話題を事業の内容に取り入れたプログラムを考える必要があります。</p> <p>・天体観察会などのイベントは、天気に影響されるため、多くの人に学習の機会を体験してもらうためには、実施回数を増やすなどの取り組みが必要です。</p> <p>・番組の投影に合わせて、季節ごとの天文現象について解説を行っています。今後も、内容を検討しながら、解説の充実に努める必要があります。</p>	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・プラネタリウムを活用した事業、天体観測機器を使用した各種観察会等の充実を図り、より一層天文に関する興味・関心を深めてもらうように努力します。</p>	

施策	5-1-3	子ども科学館運営の充実
----	-------	-------------

D i a n 【 計 画 】	No.2	学校と連携した取組の推進						所管	図書館・子ども科学館	
	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における理科に関する授業へ子ども科学館職員を派遣し、授業補助を行うことにより、実験、観察等の円滑な実施と充実を図り、児童生徒の授業への理解を深めることを目的とします。 ・市内教職員の理科に関する研修として、教職員を受入れ、資質向上や科学に対する理解の深まりと興味・関心を高めることを目的とします。 								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
		理科支援員の派遣回数	年間派遣回数	49回	33回	16回	18回	16回	16回	50回
		教職員の受入れ	年間受入数	7人	4人	15人	6人	7人	7人	10人

D o 【 実 行 】	平成28年度の取組内容								
	<p>(1) 理科支援員派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校6校に合わせて16回、授業計画の作成、授業準備・補助、安全指導、顕微鏡の点検・整備等のために子ども科学館の職員を派遣しました。 <p>(2) 教職員研修受入事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内教職員7人に対し、科学実験の準備・指導等の理科に関する研修を行いました。 								

C h e c k 【 評 価 】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	B	B	B	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	B	B	B	—

C h e c k 【 評 価 】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input type="radio"/> 計画どおり <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> ・理科支援員の派遣は、多くの学校から依頼があり、幅広く周知されつつあります。内容も多岐にわたり、ニーズに合わせた取り組みができています。 ・教職員の受入れは、まだ参加のない学校に具体的な研修内容を説明するなど、周知を強化していきます。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の技量と多くのサポートが必要な理科授業において、本事業は若手教職員や初めて理科を担当する教職員には特に有効であり、授業における技量、質の向上と、子どもたちへの手厚い支援を行うことができました。
	効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施にあたっては、早い段階での調整が必要となり、急な派遣や受入れ要請にも対応できるように、担当職員のスキルアップを図りました。

A c t i o n 【 改 善 】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの科学的思考力の向上をサポートするためには、派遣回数を増やすことや事業内容の充実が必要です。 ・授業の進捗状況に合わせて理科支援員を派遣するため、限られた職員数の中では、派遣回数等を増やしていくことが難しくなっています。 ・質・レベルを確保するためには、専門知識を持った職員が必要です。 	

A c t i o n 【 改 善 】	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決していくために、すでに利用している教職員に関しては、継続してより効果的に利用できるように努めるとともに、事業内容をより多くの教職員に周知するため、学校に出向いたときに、直接声かけをするなど活用方法について働きかけを行います。 ・各単元に応じた具体的な支援内容例を伝えるなど、学校や教職員のニーズを把握するために、より一層、連絡や相談を密にしていきます。 	

施策	5-1-3	子ども科学館運営の充実
----	-------	-------------

D i a n 【計画】	No.3	地元企業や大学、ボランティアと連携した取組					所管	図書館・子ども科学館		
	目的	<ul style="list-style-type: none"> 企業展示は、社会における科学の実践を展示して、多くの人に科学に対する興味・関心を持っていただき、さらに企業活動への理解と認識を深めていただくことを目的とします。 ロボットフェスティバルは、子どもたちの育成に熱意のある人に子ども科学館のロボット事業に参画していただくことで、より一層の事業充実・強化を図ることを目的とします。 								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
		「企業展示」への協力	協力企業数	2社	1社	1社	1社	2社	2社	継続実施
		ロボットフェスティバルへの参画	学校数 協力企業数	1校	9校 1社	9校 1社	9校 2社	9校 2社	9校 2社	4校

D o 【実行】	平成28年度の取組内容									
	<ul style="list-style-type: none"> 企業展示として、株式会社京商による「ドローン」の体験操縦と伊勢原市商工会工業会による「ジャンケンロボット」の体験を行い、多くの子どもたちが参加しました。 ロボットフェスティバルでは、市内外の高校生、大学生の研究成果の発表の場を設け、ロボット技術の紹介をすることによって科学への興味・関心を高めることができました。平成28年度も、企業・東海大学・東京工芸大学・神奈川工科大学・県立西湘高校・県立平塚工科大学の1社・5校に参加・協力いただき、4日間講座を開催し、延べ2,256人の参加がありました。 神奈川工科大学の協力により、科学工作教室「ロボットプログラミングにチャレンジ」を行いました。 市内4中学校科学部の日ごりの活動とその成果の発表・紹介を行い、延べ156人の参加がありました。 									

C h e c k 【評価】		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価					
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	企業展示やロボットフェスティバルについて、企業や学校の協力を得て、計画通り実施することができました。			
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	毎年、ロボットの操作体験は、基本動作など企業や高校・大学生の指導を受けることができ、ロボットの技術などを身近に感じる体験ができました。			
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・企業展示は、地元企業との協働を図るため、積極的に実施しました。企業側からの参加を募るためのPRも行いました。 ・ロボットフェスティバルは、各団体のロボットなどを展示したり、実際に操縦等を体験することで、より身近に先端技術を感じてもらえる機会となりました。			

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題					
	<ul style="list-style-type: none"> 参加企業の都合を考慮するため、事前準備をしっかりして早めに計画し、調整・運営していく必要があります。 参加者一人一人の満足度を高め、事業の有効性をより高めるために内容を充実します。 					

A c t i o n 【改善】	今後の方向性					
	<ul style="list-style-type: none"> ロボットイベントとして、近隣の高校や大学、企業のロボット展示・実演を行うほか、さがみロボット産業特区の展示・イベントの充実を図ります。また、市内4中学の科学部によるロボットの研究成果の発表を継続し、内容の充実や多くの参加者を集めることに努めます。また、新たに学習指導要領に取り上げられたプログラミングに関する事業も展開する予定です。 以上のように、より有効な事業の検討と今後の事業展開を見据え、各団体や小中学校の連携を図り、事業効果や課題をより的確に把握していきます。 					

施策	5-2-1	スポーツ・レクリエーション活動の充実と支援
----	-------	-----------------------

D i a n 【計画】	No.1	スポーツ競技大会の開催						所管	スポーツ課	
	目的	市民協働を基盤として継続的に運動・スポーツの機会を提供し、生涯スポーツの一層の拡充を図るとともに、より多くの市民が競技スポーツ大会へ参加できるような環境を整える。								
	事業	指標	当初値	25年度 達成状況	26年度 達成状況	27年度 達成状況	28年度 達成状況	29年度 達成見込	目標 (29年度迄)	
	各種競技大会・講習会の開催	年間参加者数	5,000人	6,038人	6,178人	7,811人	8,431人	9,000人	9,000人	
	シニアスポーツ大会の開催	進捗状況	調査・検討	調査・検討	調査・検討	開催	開催	開催見込	開催	

D o 【実行】	平成28年度の実行内容								
	<input type="checkbox"/> 各種競技大会 ・市総合体育大会参加者＝15競技、3,204人 ・市選手権大会参加者＝13競技、2,773人 ・スポーツ・レクリエーション大会＝3競技、300人 ・その他の大会・教室・研修会等参加者＝2,154人 <input type="checkbox"/> シニアスポーツ大会の開催 ・住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー」にて、還暦・古希野球大会開催								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	B	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・市総体等を開催し、競技スポーツへの参加機会を提供しました。 ・指導者研修会等を開催し、知識・技術の向上を図り、大学の運動指導者から指導等により、スポーツへの意識の高揚が図られました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・各種目団体による自主的な競技大会が実施され、生涯スポーツに親しむ機会を提供することができ、競技人口の底辺拡大と人材の育成を目的に小・中学生へのスポーツ指導を行うことができました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・体育協会等との協働により効率的に大会運営を実施し、市内にある大学のスポーツ指導者による専門的指導などにより、より質の高い事業を効率的に展開することができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・シニアスポーツ競技大会の開催に向けて行った基礎調査では、シニア世代の競技人口が少ないことや会場確保が困難なことなどが上げられており、実施内容や方法などについて再検討するとともに、中高齢者が参加しやすいニュースポーツを取り入れた大会も合わせて検討する必要があります。	
今後の方向性		
・多くの市民が競技スポーツ大会へ参加できる環境を提供し、市内にある大学のスポーツ指導者の派遣や大学スポーツ施設の定期的な借用など、市民スポーツの振興と競技人口の拡大、人材育成を推進します。		

施策	5-2-1	スポーツ・レクリエーション活動の充実と支援
----	-------	-----------------------

D i a n 【計画】	No.2	伊勢原射撃場を活用した競技の振興と地域の活性化						所管	スポーツ課	
	目的	伊勢原射撃場の利用を促進し、競技スポーツの関心を高め、競技人口の底辺拡大と人材の育成を目指す。また、全国大会の招致を積極的に行い、地元から出場できる選手の育成を図る。								
		事業	指標	当初値	25年度 達成状況	26年度 達成状況	27年度 達成状況	28年度 達成状況	29年度 達成見込	目標 (29年度迄に)
		ビームライフル射撃の講習会の開催	開催数 参加者数	調査・検討	1回 112人	3回 267人	2回 221人	3回 272人	3回 270人	講習会の開催
		全国大会の招致	実施状況	—	大会実施	-	大会実施	大会実施	大会実施 予定	招致研究

D o 【実行】	平成28年度の実行内容								
	<p>神奈川県射撃協会や伊勢原高校ライフル射撃部との協働により、ビームライフル射撃体験教室を実施した。</p> <p>□ビームライフル射撃体験教室＝6月25日(土)、10月15日(土)、1月28日(土)の3回、参加者272人</p> <p>□クレー射撃全日本選手権大会＝10月28日(金)～30日(日)</p>								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・小・中学生に伊勢原射撃場を活用したビームライフル射撃体験教室を開催し、新たな競技への参加機会を提供できました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・多くの市民が射撃場を訪れ、射撃競技への理解を深めると同時に施設の利用促進が図られました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・神奈川県射撃協会、伊勢原高校ライフル射撃同好会の協力により、より質の高いビームライフル射撃体験教室を効率的に実施することができました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・安全に楽しむ事ができるビームライフル射撃の体験機会を更に増やすため、地域スポーツ関係団体との協働による開催を検討するとともに、競技人口の拡大や人材育成など、スポーツ振興に繋がるような内容を検討する必要があります。	
	今後の方向性	
・ビームライフル射撃体験教室の開催により、伊勢原射撃場の市民利用を促し、市民スポーツの振興と競技人口の拡大、人材育成を推進します。 ・ビームライフル射撃競技が国体の高校生の部の正式種目になっていることから、選手育成を目的に中学生を対象したビームライフル射撃体験教室を実施します。		

施策	5-2-1	スポーツ・レクリエーション活動の充実と支援
----	-------	-----------------------

D i a n 【計画】	No.3	総合型地域スポーツクラブの運営支援						所管	スポーツ課	
	目的	伊勢原市独自の総合型地域スポーツクラブとして、伊勢原市と東海大学が協働し、東海大学健康クラブを運営することで、市民の自主的で日常的な健康の維持・増進活動を推進するとともに、個別の健康促進プログラムの提供や支援する。また、新たな総合型地域スポーツクラブ「伊勢原・ふれすぽクラブ」の運営を支援し、市民の継続的な運動機会の場を提供する。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
		東海大学健康クラブへの参加	年間参加者数	120人	120人	124人	112人	114人	120人	120人

D o 【実行】	平成28年度の取組内容							
	<ul style="list-style-type: none"> 東海大学健康クラブは、中・高齢者を中心に年間72講座を開催し、延べ2,625人の市民が運動、栄養等をテーマとした講座に参加しました。また、継続参加3年間の卒業制が確立され、受講修了者による自主的活動の「楽遊会」を組織し、運動・健康講座などに延べ555人が参加しました。 伊勢原・ふれすぽは、子育て中の保護者を中心に保育付きのエクササイズ、スイミング教室、親子体操教室等を実施したほか、市民からの要望によりノルディックウォーキングやシニアダイヤビック教室等も実施し、延べ2,535人が参加しました。 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<ul style="list-style-type: none"> 東海大学と連携した「東海大学健康クラブ」の運営を支援し、市民に健康促進プログラムを提供しました。また、市民主体で運営するクラブ「伊勢原・ふれすぽ」に対しても継続して運営を支援しました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<ul style="list-style-type: none"> 東海大学健康クラブは、市と大学との協定に基づく協働運営により運動プログラムを提供し、より質の高い事業が展開できました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<ul style="list-style-type: none"> 市内の大学や市民との連携により、総合型地域スポーツクラブを展開することで、クラブの自主的な運営が行われ、より多くの市民に運動の機会を提供できました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 東海大学との連携による事業効果が認知され、参加者のリピート率が高く、新たな参加者枠の確保として3年卒業制が確立され、卒業生による自主的なグループも積極的に活動しています。今後は、特定保健指導対象者には該当しないが、中性脂肪の数値等から予備軍とされるヘルスアップ対象者に対して、総合型地域スポーツクラブへの積極的な参加を促すため、魅力あるプログラムを提供する必要があります。 	
	今後の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの継続的な運営支援を行うとともに、継続的な運動が必要なヘルスアップ対象者に対する事業周知を行いました。運動・スポーツに無関心な層も含めて、多くの市民が参加しやすい運動プログラムを提供し、継続的な健康づくりや運動の習慣化を図ります。 		

施策	5-3-1	文化芸術活動の推進
----	-------	-----------

D i a n 【計画】	No.1	市民活動の発表・文化芸術鑑賞機会の提供					所管	社会教育課		
	目的	「いせはら市展」、「市民文化祭」等の開催により、多くの市民が学習成果の発表や優れた芸術作品を鑑賞することができ、「市民音楽会」、「伊勢原美術協会展」の開催により、地域の音楽家や芸術家の優れた芸術活動に触れ、文化芸術の普及と発展を図ります。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
		いせはら市展の開催	出品数 入場者数	198点	245点	226点	239点	242点	250点	継続開催
				1,824人	1,880人	1,776人	1,984人	1,764人	1,900人	
		伊勢原市民文化祭の開催	催事数 入場者数	34催事	34催事	34催事	34催事	34催事	34催事	継続開催
	14,144人			11,278人	11,333人	9,439人	10,017人	11,000人		
	市民音楽会の開催	入場者数	341人	406人	526人	574人	650人	650人	継続実施	
	伊勢原美術協会展の開催	展示作品数 入場者数	—	31点	36点	35点	33点	35点	継続実施	
			1,410人	1,474人	1,651人	1,270人	1,350人	1,400人		

D o 【実行】	平成28年度の取組内容									
	<p>市民の文化芸術活動の成果を発表する機会と身近に鑑賞する機会を提供し文化芸術の向上に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第21回いせはら市展 4部門(絵画・彫刻・書、写真、陶・工芸)の作品展示、記念講演会の実施 ・第52回伊勢原市民文化祭 展示:12催事、大会:3催事、イベント:5催事、発表13催事 ・第30回姉妹都市茅野市文化交流展(会場:茅野市) ・第28回市民音楽会 出演者:伊勢原市音楽家協会会員25人 ・第32回伊勢原美術協会展 									

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	B	B	B	B	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・計画通りに事業を実施し、活動成果の発表の機会や文化芸術の鑑賞の機会を提供しました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・日ごろの活動成果を発表する場や身近な場で文化芸術に親しむ機会を提供することにより、文化芸術に対する市民の関心が高まり、文化の香り高いまちづくりに貢献しています。
	効率性	<input type="radio"/> 効率的に実施された <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・専門的に活動する団体へ事業委託することで、効率的な運営や内容の充実を図ることができましたが、より安定した活動を続けるためには、協賛金の手法を活用するなど、見直し・検討が必要です。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・事業の担い手となる団体においては、高齢化による会員減少の傾向が見られます。今後、事業の形態を見直す必要があるとともに、新たな担い手となる若い世代の参加を促す取組が必要です。	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・文化芸術活動の推進に向け、継続して事業を実施していきます。開催にあたっては、より多くの市民に鑑賞していただけるよう周知方法等を検討します。また、中央公民館の展示ケースを活用し、中学生の美術作品やいせはら市展の入賞作品を展示するなど、新たな事業を取り入れつつ、文化芸術作品の鑑賞の機会の充実に努めていきます。	

施策	5-4-1	社会教育施設の整備・充実
----	-------	--------------

D i a n 【計画】	No.3	新たなスポーツ広場の整備						所管	スポーツ課	
	目的	スポーツ活動の場を確保し、市民スポーツの推進のため、多目的スポーツ活動や、青少年のスポーツ活動に適した用地の活用を図る。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで	
	スポーツ広場の整備	進捗状況	調査・研究	調査・研究	測量 樹木伐採等	設計・整備	供用 22,146人	供用 23,000人	調査・研究	

D o 【実行】	平成28年度の実績								
	<ul style="list-style-type: none"> 28年4月1日より上満寺多目的スポーツ広場として供用開始しました。 登録利用団体13団体 28年度の利用実績は、大人4,788人、子ども17,358人合計22,146人 利用率は58.9%、休日の利用率は97.3% 								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・当初の目標に対し、計画を前倒ししてスポーツ広場を整備することができ、平成28年4月1日から供用を開始しました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・年末年始を除いた利用可能日の利用率は58.9%、週末の利用率は97.3%という高い利用率であり、有効的に活用されている。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・利用者による利用連絡会を組織し、休日の利用調整等において利用者相互の調整により、効率的に利用促進が図られました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・スポーツ広場の利用促進を図る一方で、敷き砂の飛散に伴い、快適な利用に支障が生じていることから、砂の飛散防止に取り組む必要があります。	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・スポーツ広場の良好な利用環境を確保するため、継続的にグラウンドメンテナンスを実施します。	

施策	6-1-1	文化財保護・市史編さんの推進
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.1	国指定重要文化財・宝城坊本堂保存修理への支援						所管	教育総務課 (歴史文化担当)	
	目的	平成22年に文化庁は、宝城坊を事業者とする保存修理事業の申請を認め、国庫補助事業として宝城坊本堂の保存修理工事の実施を決定しました。事業の目的は、重要文化財である本堂を健全な状態に復旧して、地域の歴史を物語る文化遺産としての価値を高め、将来に継承していくことです。伊勢原市としては、その事業の意義を認識し、地元自治体として事業の支援を行うものです。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
		宝城坊本堂保存修理工事	進捗状況	解体工事完了	基礎工事 木工事	木工事 組立工事	屋根工事 木工事等	事業完了	28年度に 目標達成	工事完了 (28年度)
		見学会・講演会等の開催	参加者数	160人	99人	422人	530人	391人	28年度に 事業完了	500人 (28年度終了)

D o 【実行】	平成28年度の実績	
	<p>・保存修理事業は、国・県・市の補助金を活用して計画どおり実施されました。市としても、計画どおりの補助を実施しました。関連する事業として、市民向けの修理現場見学会を10月に、修理内容を解説する講演会を12月と1月の2回実施しました。また、市のホームページ等を通じて情報発信に努めました。</p> <p>【活用事業の実施日と参加人数】</p> <p>(1)現場見学会 平成28年10月22日(土) 224人</p> <p>(2)講演会 ①平成28年12月11日(日) 60人、②平成29年1月22日(日) 107人 計391人</p>	

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	B	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<p>・保存修理事業は、文化庁の指導を受けながら、計画どおりに実施されました。</p> <p>・所有者、関係者の協力を得ながら、市の直営事業として実施している修理現場の見学会は、現場の安全上の配慮から1回となりましたが、修理内容を解説する講演会は2回実施することができました。</p>
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<p>・市域で最も指定文化財が集中している宝城坊のなかでも、本堂はその中心的な存在です。認定を受けた日本遺産の構成文化財でもある宝城坊の本堂を良好な状態に修理し、将来に継承していくことは、文化財の保護のみならず、地域活性化の面からも意義があると考えられます。</p>
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<p>・保存修理事業は、文化庁の指導のもと、文化財の保存と継承の理念に基づき実施されました。</p> <p>・見学会の開催に際しては、所有者、工事関係者、さらに養成した歴史解説アドバイザーに協力いただきました。</p>

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・本事業は平成28年度をもって終了しました。</p>	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・保存修理事業は平成28年度で終了しましたが、日本遺産協議会の取組や当課が実施する文化財公開・活用事業等において、完成した本堂をはじめ、日向地区の文化財を積極的に活用することで、文化財保護への理解を深めつつ、地域の活性化につなげていく必要があります。</p>	

施策	6-1-1	文化財保護・市史編さんの推進
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.2	市史編さん事業の推進						所管	教育総務課 (歴史文化担当)	
	目的	伊勢原市の歴史的発展過程を顧みて、将来における本市の進むべき方向を展望し、郷土伊勢原に対する市民の関心を高めるとともに、資料を永く後世に残すことを目的とします。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
		通史編近現代の刊行	進捗状況	執筆準備	原稿執筆	第12巻刊行	平成26年度に刊行	平成26年度に刊行	平成26年度に刊行	刊行
		ダイジェスト版の作成	進捗状況	検討	検討	検討	編集方針決定	構成の決定・執筆準備	原稿完成	原稿完成
D o 【実行】	平成28年度の実績									
	<p>・28年度は調査及び会議を計6回開き、全体構成の作成と各執筆委員による担当部分の文章化、全体の調整を行いました。全体構成は概ね完成し、文章化も全体の50%以上が終了しました。平成29年度の実績へ向けた見通しが立った状況です。</p> <p>・また、作業の中で、戦前の大山に関する資料や明治時代の文化財修理の記録等、新たな資料の発見もありました。</p>									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
後期基本計画期間全体の自己点検評価										
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・平成29年度原稿完成、30年度刊行へ向け、事業は計画どおり進んでいます。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・市民の広い層に伊勢原の歴史をわかりやすく伝えるため、ダイジェスト版の刊行に向けた作業を進めました。また、既に刊行されている「伊勢原市史」の総点検により、戦前の大山に関する資料等新たな発見もあり、ダイジェスト版に生かしていきます。							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・会議の開催回数に限られる中で、ダイジェスト版の刊行へ向け、構成、原稿について作業を進めることができました。							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<p>・全体構成に沿って、想定ページ数に抑えながら、わかりやすい内容になるよう、まとめていく必要があります。一連の作業の中で、新たに市にとって重要な資料が確認されており、今後もそうした資料が発見される可能性があります。</p> <p>・ダイジェスト版刊行以後の資料保管と活用について検討する必要があります。</p>									
今後の方向性										
<p>・伊勢原市史の編さん事業がスタートして30年が過ぎ、この間に新たな資料の発見や調査・研究の進展がありました。ダイジェスト版の編集に当たっても、それを踏まえた対応が必要となります。また、今後も進むべき地域づくりへの貢献を図るため、情報の収集と調査に努めていきます。</p>										

施策	6-1-1	文化財保護・市史編さんの推進
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.3	文化財保管施設の整備						所管	教育総務課 (歴史文化担当)	
	目的	市内の文化財の散逸を防ぎ、安定的に収集、保管、管理するために、文化財の保管施設の確保を目指します。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで	
	保管施設の整備	進捗状況	情報収集	情報収集	情報収集	情報収集	情報収集 再整理	情報収集 一部整備	施設整備	

D o 【実行】	平成28年度の実績内容								
	<p>・市民から寄附を受けた敷地と建物の適切な維持管理を図りながら、施設を利用し、文化財資料の整理を進めました。また、空調、照明等、必要な施設改修を段階的に実施しました。</p> <p>・この他、借用している保管スペースについては、資料の整理を行い、スペースの有効利用を図りました。</p>								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	B	B	A	A	—
	有効性	A	A	A	B	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input type="radio"/> 計画どおり <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<p>・施設の維持管理については、適正に実施することができました。照明、空調等、利用に当たって必要な改修を行いました。改修後の施設を利用して、日本遺産等を紹介する展示会を開催しました。</p>
	有効性	<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<p>・寄附いただいた施設については利用価値が高く、今後の検討により将来の有効活用を図ることが可能です。</p>
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<p>・維持管理については、必要最低限の経費で実施し、改修費の一部には外部資金を充当しました。</p>

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・資料の展示・公開、日本遺産の情報発信、観光スポット案内等の機能を有する施設として整備していくためには、バリアフリー化等の基本的な環境整備を行う必要があります。また、資料館としての本格稼働に当たっては、法的な位置づけとともに、施設の運営方法(市直営、指定管理等)、駐車場整備等が課題となります。そうした計画の中で、資料の保管スペースを位置づける必要があります。</p>	
A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・市民から寄贈を受けた土地・建物を有効活用した上で、文化財資料を市民をはじめ多くの方々に展示・公開する(仮称)郷土資料館としての整備に向けた検討を進め、その中で資料の適切な保管についても取り組んでいきます。</p>	

施策	6-2-1	歴史・文化の魅力発見と情報発信の推進
----	-------	--------------------

D i a n 【計画】	No.1	文化財情報の発信						所管	教育総務課 (歴史文化担当)	
	目的	文化財をより積極的に活用していくために、収集した資料、データを広く公開し、関連する情報の発信に努め、地域資産としての文化財の価値と意義の理解を促し、市民が地域への関心を高めることを目指します。「市民の力で文化財を護り育てる」という文化財保護意識の向上を目指し、文化財や歴史についての理解を深め、地域でその価値をアピールする人材を育成します。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
		伊勢原文化財HPサイトによる情報提供	掲載メニュー数	9メニュー	9メニュー	10メニュー	12メニュー	14メニュー	15メニュー	12メニュー
		伊勢原文化財HPサイトアクセスの拡大	年間アクセス数	5,396件	8,062件	8,575件	7,559件	8,066件	8,000件	8,000件

D o 【実行】	平成28年度の実績							
	<p>・平成28年度当初に12件となっていた「いせはら文化財サイト」のメニューに、平成28年度に認定された日本遺産や竣工なった宝城坊本堂の保存修理事業の2メニューを追加し、掲載内容の充実を図るとともに、適切な時期による最新情報の更新を行いました。</p> <p>・歴史解説アドバイザー養成講座は第4期を終了し、新たに28名を認定しました。これにより、認定者の総計は98名となりました。</p>							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	B	B	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・ホームページのメニューは目標の12を越える14となりました。年間のアクセス数は8,000件を越え、文化財の情報発信ツールとして定着しています。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・新メニューとして、平成28年度に認定された日本遺産や竣工なった宝城坊本堂の保存修理事業等、旬の情報を加えました。また、文化財に関するイベント情報等の掲載により、市民の参加を促す取組を行いました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・職員によるメニューづくり、ホームページ管理により、経費的に抑制することができています。また、歴史解説アドバイザー養成講座では、資料代、外部講師料について参加者に費用負担をお願いしています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<p>・現行のホームページの構成、内容を見直しながら、閲覧者の幅を広げていく必要があります。伊勢原を訪れてみたいと思わせるようなブラッシュアップが必要です。また、日本遺産の認定を踏まえ、海外への情報発信を図るため、英語表記の検討を進める必要があります。</p>	

A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	<p>・「いせはら文化財サイト」については、新規メニューの検討を進めながら、現行の内容充実を図り、閲覧者層の拡充の工夫をしていきます。また、掲載内容の英語化について検討していきます。</p>	

施策	6-2-1	歴史・文化の魅力発見と情報発信の推進
----	-------	--------------------

D i a n 【計画】	No.2	文化遺産と観光を結びつけた地域の活性化						所管	教育総務課 (歴史文化担当)	
	目的	観光部局等と連携を図りながら、文化財、文化遺産をより積極的に活用し、伊勢原への関心を高めるとともに、文化財を生かした地域の活性化を図ります。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで
		展示室の整備	進捗状況	調査・検討	検討	検討	検討	検討	検討	展示室の整備及び運営
		散策コース設定、標柱及び案内板の設置	コース設定	コース設定	検討	案内板設置	案内板標柱設置	案内板設置	案内板設置	随時設置
	文化財マップ作成	調査・検討	調査・検討	検討	マップ完成	マップ配布	マップ配布	マップ配布	マップ完成	
	文化遺産を活用した見学会、講座、各種催し物	年間参加者数	2,164人	3,033人	3,986人	3,924人	5,319人	4,000人	3,600人	
D o 【実行】	平成28年度の取組内容									
	<p>・新たに認定した28名を加え、総数98名となったいせはら歴史解説アドバイザーの協力を得ながら、文化財ウォーク、講演会、展示会、特別公開等を実施しました。また、市民から寄附いただいた施設を利用して日本遺産の紹介と文化財関連市民団体の活動成果を発表する「文化財フェスタ2017」を開催しました。</p> <p>【文化財活用事業への参加者数】</p> <p>(1) 学校への出前授業(10校、20回)1,794人 (2) 公開展示 (6回)2,344名 (3) 見学会(6回)857人 (4) 講演会・報告会(6回)185人 (5) 文化財ウォーク (6回)139人 合計5,319人</p>									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	B	B	A	A	—				
	有効性	A	A	A	A	—				
	効率性	A	A	A	A	—				
	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
進捗状況	A	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	<p>・散策コースの整備事業では、文化財の解説板を2箇所設置しました。学校への出前授業等の定例事業に加え、日本遺産に関連する展示会、かながわ考古学財団との共催による発掘調査現場の公開を実施しました。その結果、目標を上回る参加者となりました。</p>							
有効性	A	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	<p>・文化財の見学会、展示会、ウォーク等は市外からも参加を得ています。学校現場への出前授業では、地域素材を活用した歴史授業を行っています。また、日本遺産に関連する事業は、市内外に対して伊勢原への関心を高めていくことへつながっています。</p>							
効率性	A	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	<p>・県、財団等の他組織、市民団体との連携により、それぞれの専門性を生かしながら事業を実施しました。養成した歴史解説アドバイザーが各種団体で中心的な働きをされており、文化財の活用事業を推進する上で、大きな力となっています。</p>							
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<p>・日本遺産協議会で実施していく文化財の公開・活用事業との調整を図り、相互に補完する形で事業を展開していく必要があります。また、人材育成事業については、カリキュラムを見直した上で、内容の充実を図る必要があります。</p>									
今後の方向性										
<p>・地域で文化財を保護、継承していくにあたっては、文化財に携わる人材育成が重要な方策です。そのために、カリキュラムの見直しを行った上で、ボランティアの養成を継続していきます。また、活動が活発となっている文化財関連市民団体の活動に対する支援、連携事業の推進を行います。こうした取組により、市民活動の活性化と文化財保護意識の浸透を図っていきます。</p>										

施策	7-1-1	教育委員会活動の充実・活性化
----	-------	----------------

D i a n 【計画】	No.1	教育委員会(教育委員)活動の充実						所管	教育総務課	
	目的	市民に教育委員会の役割や活動内容を理解してもらうため、積極的な教育委員会の情報公開とPRを行い広く活動内容を周知し、より市民から信頼される教育委員会を目指します。								
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標 29年度まで	
	関係機関との情報交換及び視察	年間開催数	3回	6回	6回	8回	7回	8回	5回	
D o 【実行】	平成28年度の実績									
	<p>・教育委員会議(13回)、定例研究会(10回)、総合教育会議(2回)、点検評価会議(2回)、県市町村教育委員会連合会総会及び研修会における意見交換(2回)</p> <p>・学校訪問(竹園小、大山小、桜台小)や学校研究発表会(緑台小)、人権教育指定研究校報告会(成瀬中)時の教職員との情報交換(5回)</p> <p>※上記のほか、小中学校卒業式、各種教育委員会関連行事や成人式等の行事へ参加</p> <p>※広報紙「きょういく伊勢原」の発行(1回)</p>									
C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧									
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
	進捗状況	A	A	A	A	—				
	有効性	A	B	A	A	—				
	効率性	B	A	A	A	—				
C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価									
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず		<input checked="" type="radio"/> 他自治体の教育委員や教職員との意見交換が図られるとともに、各種行事への参加に際し、関係機関・団体関係者との有意義な意見交換が図られました。						
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い		<input checked="" type="radio"/> 様々な機会を通じた情報交換により多くの情報を得ることができ、本市の教育委員会運営及び事業執行に資することができました。						
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要		<input checked="" type="radio"/> 限られた予算や時間の中で、効率的な活動が図られました。						
A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題									
	<p>・平成29年4月の本市における新教育委員会制度(教育長と教育委員長の本体化等)への完全移行に伴い、新教育委員会制度の趣旨を踏まえた教育委員の役割や活動内容について改めて考える必要があります。</p>									
A c t i o n 【改善】	今後の方向性									
	<p>・新教育委員会制度における教育委員の立場や役割を市民に理解してもらうとともに、積極的な活動により委員の存在をより明確なものにします。</p>									

施策	7-1-2	教育委員会の危機管理の徹底
----	-------	---------------

D i a n 【計画】	No.1	危機管理の徹底・強化						所管	教育総務課
	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会として危機管理を徹底し、危機的事態の発生に至る前の予防的措置を徹底します。 ・危機的事態が発生した場合において、適切な対応を図り、児童生徒や一般市民の人的被害及び学校やその他の教育施設への被害の拡大防止に努めます。 							
	事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
	「危機管理の手引き」に基づく対応の徹底	取組状況	実施	マニュアルの見直し	実施	実施	実施	実施	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実績								
	<ul style="list-style-type: none"> ・台風等の発生に際し、学校施設をはじめとする教育施設の早期点検を行い、各施設の安全確保に迅速に対応しました。 ・教育施設への爆破予告事件に際し、各施設の点検を迅速に行いました。 ・児童生徒及び教育施設利用者並びに教職員の事故等について、「教育委員会における危機管理の手引き」に従い、迅速な情報伝達・情報共有により各種事案に対応しました。 								

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	A	A	A	—
	効率性	A	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・日頃から、教育委員、教育委員会職員、教職員等が危機意識を持ちながら業務に取り組みました。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・「教育委員会における危機管理の手引き」が情報収集・伝達・共有に際し、有効に機能しました。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・各種事案に対し、体系的で効率的な対応が図られました。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	・有事の際の各種関係機関との連絡・調整方法等について、改めて整理及び確認をしておく必要があります。	
A c t i o n 【改善】	今後の方向性	
	・「教育委員会における危機管理の手引き」について、昨今の課題や現状に合わせた改定に向けて検討します。	

施策	7-1-3	教育振興基本計画の進行管理
----	-------	---------------

D i a n 【計画】	No.1	教育委員会事業の点検・評価						所管	教育総務課	
	目的	毎年、教育振興基本計画の点検評価を行い、計画に対する実行、それに対する評価、評価を踏まえた次への改善によるPDCAサイクルの実践を図り、有効かつ効率的な事業の執行を図ります。								
		事業	指標	当初値	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度達成見込	目標29年度まで
		教育委員会点検・評価の実施・結果の公表	実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	継続実施

D o 【実行】	平成28年度の実施内容							
	<p>(点検評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己点検評価として、取組ごとの点検評価シートに従い教育委員会事務局による点検評価を各所属で行い、その後、教育委員による点検評価の会議を2回実施しました。 (報告書の作成及び公表) 外部点検評価として、学識経験者からの総括的な意見を加えて報告書としてまとめました。また、議会への報告を経て公表しました。 							

C h e c k 【評価】	各年度の評価一覧					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	進捗状況	A	A	A	A	—
	有効性	A	B	A	A	—
	効率性	B	A	A	A	—

C h e c k 【評価】	後期基本計画期間全体の自己点検評価		
	進捗状況	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 概ね計画どおり <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず	・例年、スケジュールに沿って点検評価が実施できています。
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い	・PDCAサイクルに基づき点検評価を実施し、翌年度の事業執行に反映するなど、点検評価が有効に機能しています。
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施された <input type="radio"/> 改善の余地がある <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要	・点検評価が効率的に実施できるよう、毎年、点検評価の様式や実施方法に工夫を重ねています。

A c t i o n 【改善】	事業推進上の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長の権限により編成される教育課程や学校運営等の取組について、点検評価の対象にするか否かを検討する必要があります。 ・さらなる効果的で効率的な点検評価の実施に向けて工夫していく必要があります。 	
	今後の方向性	
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度スタートの第2期教育振興基本計画の策定にあたっては、進行管理である点検評価を踏まえた検討を行っていきます。 	



平成29年度（平成28年度対象）
教育委員会点検評価報告書

発行年月 2017年10月
発行 伊勢原市教育委員会
編集 教育総務課
〒259-1188 伊勢原市田中 348 番地
TEL :0463-94-4711 内線 5110・5116
FAX :0463-95-7615